

◆医学専攻について

1. 医学専攻の概要

高度の専門化と多様化を遂げてきた医学研究は、個別専門研究領域の境界を越えた集学的研究の時代に入っており、包括的・総合的医学知識と技術の取得、社会との連携を視野に入れた見識と倫理性、新領域・融合領域の開発につながる自主性と独自性を備えた能力の修得が必須の要件となってきた。

このため、医学研究科博士課程（4年制一貫制）を1専攻に統合し、従来の専門分野に加えて臨床・基礎・社会医学を横断する大学院教育コースを設置した。高度専門研究者養成を行う専門分野での教育と医学研究科全域にわたる知識の習得をすることにより、真に『国際的に強力なリーダーシップを発揮しうる優秀な医学研究者・医療専門家』の育成を図る。

2022年度入学者より、大学院教育コースにおいて学位論文の中間ヒアリングとチューターシステムを導入することによって、大学院生の研究進捗状況をチェックし、必要に応じてアドバイスを与える。研究レベルの向上をサポートする体制を強化する。医学専攻博士課程では2年次あるいは3年次に中間ヒアリングにおいてチューターが研究進捗状況をチェックし、適切な研究方針で研究しているか、順調に研究が進展しているかなどを確認・審査する。

2. 医学専攻の教育課程

博士課程の修了の要件は、同課程に4年以上在学して30単位以上修得し、研究指導を受け、かつ、医学研究科の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。

なお、修得すべき30単位の履修方法は原則として、次の表のとおりとする。

2022年度以降入学者

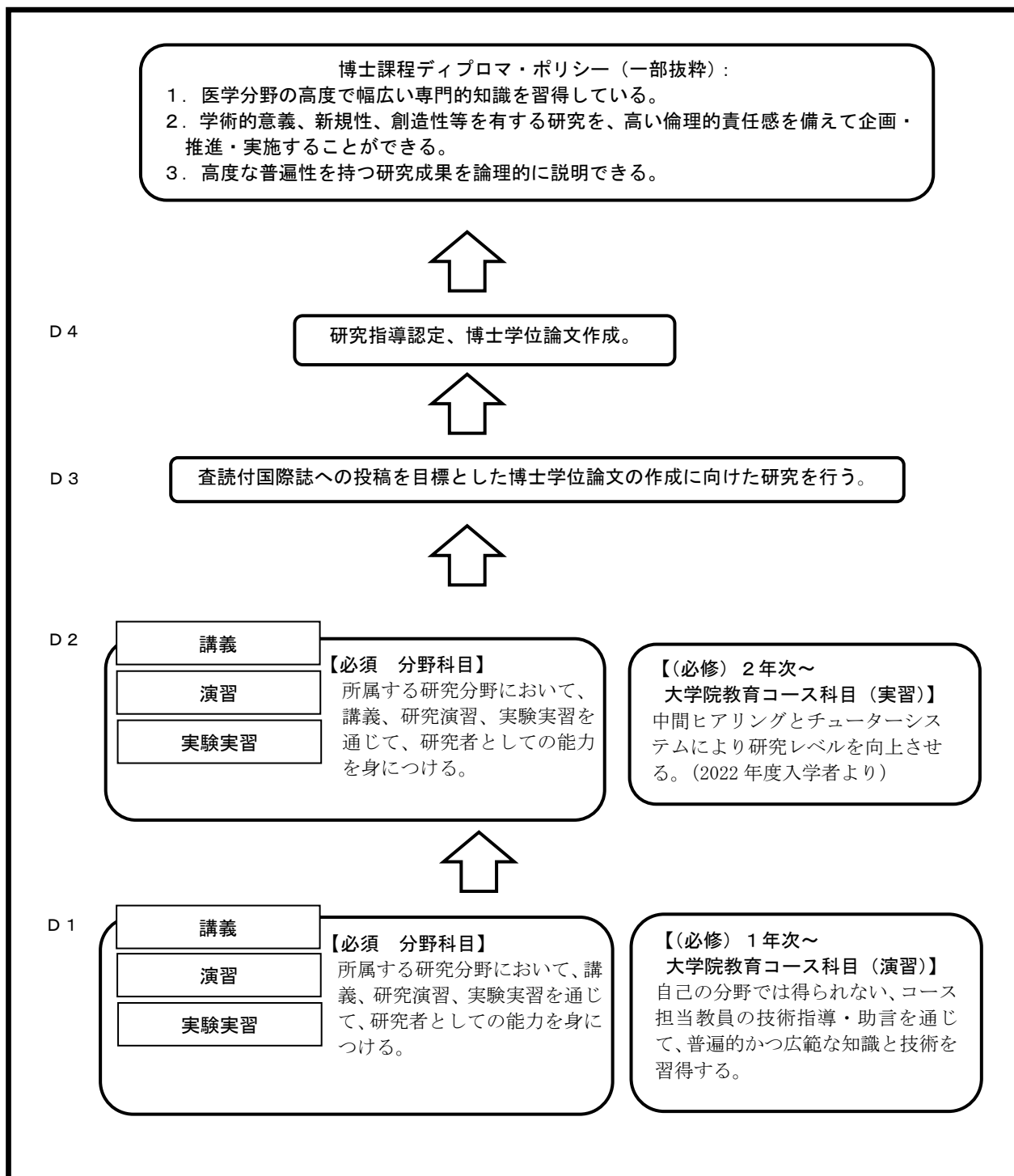
科目	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	備考
分野科目	講義	4単位	4単位		24単位	所属する研究分野の科目
	演習	4単位	4単位			
	実験実習	4単位	4単位			
コース科目	演習	4単位（1年次～）			6単位	大学院教育コースの科目（「実習」を履修するには同じコースの「演習」を取得することが条件となる。「実習」は中間ヒアリングに合格することで単位取得ができる。）
	実習		2単位（2年次～）			

※2021年度以前入学者は、大学院教育コース科目については、同一年度に演習と実習を併せて履修することができる。

注) 原則として1年間（年度）に履修科目として登録することができる単位数は42単位を超えることはできない。ただし、次の場合は超過を認める。

- (1) リーディングプログラムの履修者がリーディングプログラム科目を履修する場合
- (2) 政策のための科学プログラムの履修者が政策のための科学プログラム科目を履修する場合
- (3) 社会健康医学系専攻特別コース・特別プログラム（MCRコース、遺伝カウンセラーコース、1年制MPHコース、知的財産経営学プログラム、臨床統計家育成コース）の履修者が、特別コース・特別プログラムにおける必修科目等を履修する場合

3. 医学専攻博士課程のコースツリー



◇ 医学研究科大学院教育コース

1. 大学院教育コースの目的

- 1) 医学博士課程（4年一貫制）6専攻を医学専攻1専攻に統合し、従来の「大学院専門分野」に加えて、基礎系・臨床系・社会医学系を横断する10の「大学院教育コース」を系統的な教育ユニットとして設置し、今日医学研究者に必要とされる幅広い素養・自主性・知識・技術の系統的な修得に備える。
- 2) 大学院生は1つの専門分野に所属し研究するとともに、指導教員とともに研究テーマに関連のあるいずれかのコースに参加する。これにより徹底した個人指導とともに普遍性かつ広範な知識と技術を修得する。その結果、新たな視点の導入や共同研究の可能性など異なった視点からの研究展開も検討される。
- 3) 4+10の大学院教育コースでは、所属分野で取得不可能な技術を参加教室での実習ローテーションにより取得するとともに、定期的に行われるコースミーティング（研究会）で研究成果・経過を発表し、相互討論を行い、コースに参加している他分野の教員より助言を受ける。すなわち、学生の自主性に従って随時必要な視点からの適切なアドバイスが受けられる。
- 4) 指導的研究者育成をめざす本研究科の目的に基づき、学生は、これらの場である各コースの研究発表会・ミーティングやプログラム作成などにあたり、自主的な教育・運営能力も習得する。
- 5) 国際的コミュニケーション能力、研究・医療倫理、知的財産管理等を全コース共通の集中講義により修得する。
- 6) コース参加教員は各コース毎にコース会議を組織し、学生の取得目標の設定、技術指導・目標達成度のチェック、集中講義、先端セミナーなどを行う。

2. 大学院教育コース履修について

例えば、同じ教室・分野に所属する学生Aは、教員Xと共に発生・細胞生物学・システム生物学コースに参加し、学生Bは、教員Yと共に免疫・アレルギー・感染コースに参加する。また学生Aが研究テーマの展開・発展に伴い腫瘍学コースにも参加することも可能である。他分野からの教員・学生が参加する各コースでの研究発表会で相互討論し、個々の分野では得られない技術および助言を受ける。さらにRIセンター、動物実験センター、形態学技術支援、プロテオミクス解析、動物行動解析、医学・生物統計相談等の技術支援も適宜受ける。基礎・臨床の教室の教員も同じコースに参加し、参加コースも流動的でよいこととする。全コース共通テーマとして、国際的に通用するコミュニケーション能力、研究倫理、知的財産などの集中講義、セミナーなども行う。

3. 大学院教育コース運営について

教員が主となるコース会議において、各コースの履修目標・内容の検討が継続的に行われる。またコース運営担当院生もコース会議に出席し、運営を補助し、積極的に提言する。

コースミーティング（研究会）は月1回（年10回）行い、年1～2回の合宿研究会も開催する。各コースで学生主導の研究プログラムの作成と成果討議の機会を通して、自立した研究者としての教育が行われる。

コースの全体会議としてオーガナイザー会議を設置する。

コース事務局はコース登録・管理、実習ローテーションの受付・管理、各コース研究会や会議の日程調整、学生へのオリエンテーションと広報、全コース共通カリキュラム及びオーガナイザー会議の企画・運営などの業務を行う。

4. 単位について

大学院教育コースごとに、演習（4単位）・実習（2単位）が付与される。

医学専攻博士課程、医科学専攻博士後期課程においては、2022年度入学者より、演習4単位、実習2単位をそれぞれ異なる年度に履修することとなる。また、それらの課程においては中間ヒアリングに合格することが「実習」2単位の修得要件となる。

履修評価は主にミーティング及び合宿の出席・発表等で判断される。また、各コース共通の講義・実習等が開講され、それらへの参加の有無も加味される。共通の講義・実習等については決定次第大学院教育コースホームページ（<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/edcourse/>）にて通知する。

最終的には、学位審査も学生の所属コースのコース全体会議において実質的な審議を行う方向で検討を進める。

2023年度 大学院教育コース 授業科目一覧表

科目コード	科目名	責任教員（オーガナイザー）	単位	備考
P029000	発生・細胞生物学・システム生物学（演習）	渡邊（直）教授（神経・細胞薬理学）	4	
P030000	発生・細胞生物学・システム生物学（実習）	渡邊（直）教授（神経・細胞薬理学）	2	
P005000	免疫・アレルギー・感染（演習）	生田教授（免疫制御）	4	
P006000	免疫・アレルギー・感染（実習）	生田教授（免疫制御）	2	
P007000	腫瘍学（演習）	小川教授（腫瘍生物学）	4	
P008000	腫瘍学（実習）	小川教授（腫瘍生物学）	2	
P011000	神経科学（演習）	渡邊（大）教授（生体情報科学）	4	
P012000	神経科学（実習）	渡邊（大）教授（生体情報科学）	2	
P013000	生活習慣病・老化・代謝医学（演習）	柳田教授（腎臓内科学）	4	
P014000	生活習慣病・老化・代謝医学（実習）	柳田教授（腎臓内科学）	2	
P015000	再生医療・臓器再建医学（演習）	長船教授（応用再生医学研究）	4	
P016000	再生医療・臓器再建医学（実習）	長船教授（応用再生医学研究）	2	
P017000	病理形態・病態医学（演習）	羽賀教授（病理診断学）	4	
P018000	病理形態・病態医学（実習）	羽賀教授（病理診断学）	2	
P033000	社会健康医学・臨床疫学研究（演習）	今中教授（医療経済学）	4	
P034000	社会健康医学・臨床疫学研究（実習）	今中教授（医療経済学）	2	
P027000	医工情報学連携（演習）	中本教授（画像診断学・核医学）	4	
P028000	医工情報学連携（実習）	中本教授（画像診断学・核医学）	2	
P035000	医療DX（演習）	黒田教授（医療情報学）	4	
P036000	医療DX（実習）	黒田教授（医療情報学）	2	

5. 1.1の「大学院教育コース」の概要及び開講科目

◎発生・細胞生物学・システム生物学コース

発生・細胞生物学および数理生物学、情報科学の幅広い分野について、専門分野を超えた横断的な討論と技術修得の機会を提供する。これらの分野で活躍する内外のエキスパートとの交流を通じて、広い視野と知識、疾患への理解、共同研究を遂行する能力、語学力や情報発信能力、社会的責任感や倫理的な視野等を涵養し、様々な生理現象のメカニズム解明、病因の解明、優れた診断・予防・治療法の開発などに貢献できる、有能な医学・生物学者、あるいはまた、医学・生物学領域の幅広い問題に対応できる数理・情報科学研究者の育成を目指す。

◎免疫・アレルギー・感染コース

系統的演習と実習により、学生に基礎免疫学の概念と基本的技術を十全に習得させるとともに、感染症、アレルギー、自己免疫疾患、移植や腫瘍免疫などの多様な領域における臨床・応用免疫学の最新の知識と研究の動向を理解させ、これらの総合的理解に基づき基礎および臨床免疫関連分野における独自の研究を展開しうる広い視点と技術をもった学生の養成をはかる。

◎腫瘍学コース

系統的演習と実習により、基礎腫瘍学の概念と基本的技術を十全に習得させるとともに、多様な臓器における臨床・腫瘍学の最新の知識と研究の動向を理解させ、これらの総合的理解に基づき基礎および臨床腫瘍学関連分野における独自の研究を展開しうる広い視点と技術をもった人材の養成をはかる。

◎ゲノム・オミックス統計解析コース（2023年度は休講）

ゲノム医学分野は、遺伝学・人類遺伝学の理論的側面の深い理解が研究計画の立案に必須であり、その上遺伝子タイピングを実践するための技術の習得及び、生産されたデータを解釈するため統計遺伝学を理解し使いこなす必

要がある。これらを目的として演習、実習を効果的に組み合わせ、ヒト多因子型遺伝病の遺伝解析を自ら計画し遂行できるようになるまで一貫した指導を行う。また、ゲノム情報科学の基礎、法医学、ゲノム創薬分野の特論を実施し、ポストゲノムの応用面も理解してもらう。

◎神経科学コース

系統的な演習と実習により学生に神経科学の基礎知識と実験技術を習得させ、独立して実験を行い、神経科学分野の論文をまとめる能力を養う。

◎生活習慣病・老化・代謝医学コース

系統的演習と実習により、学生に糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝を中心に基本的な代謝回路とその恒常性を維持するための制御システムの理解を促し、併せて代謝異常と生活習慣病、内分泌疾患、老化疾患との関連を学ばせる。また、代謝回路の解析、代謝疾患モデル動物の解析、代謝制御に関わるシグナル伝達システムの解析に関する基本的技術を十全に習得させる。更に、動脈硬化、糖尿病、骨そしょう症、その他の内分泌・代謝疾患、認知障害など生活習慣、加齢が関わる多様な領域における臨床・診断治療法の開発に関する最新の知識と研究の動向を理解させる。これらの総合的理解に基づき関連分野における独自の研究を展開しうる広い視点と技術をもった学生の養成をはかる。

◎再生医療・臓器再建医学コース

系統的演習と実習により、学生に再生医学・再生医療、臓器移植・細胞移植の概念と基本的技術を十分に習得させるとともに、体性幹細胞、ES細胞、iPS細胞、移植免疫などについての最新の知識と研究の動向を理解させ、これらの総合的理解に基づき基礎的素養を充分身につけ、かつ再生医療、臓器移植、細胞移植における独自の研究を展開しうる広い視点と技術をもった学生の養成をはかる。

◎病理形態・病態医学コース

系統的演習と実習により、学生に人体および各種動物の正常形態学、病理形態学の概念、形態学的研究に関する各種の基本的技術および動物実験法の基礎的知識と基本的技術を習得させる。これらの総合的理解に基づき、独自の研究を展開し得る広い視点と技術を持ち、多様な疾患の病的状態を形態学的に調べ、その成因や病理発生のメカニズムを明らかにしていくことの出来る学生を養成する。

◎社会健康医学・臨床疫学コース

社会健康医学の概念と方法論を用い、事例中心に演習を行う。コース・ミーティングでは社会健康医学の多様な領域における最新の知識と研究の動向を学び、合宿では主に学生の研究課題を題材にして鍛錬を行う。

◎医工情報学連携コース

医学と工学の融合研究は、今後の医学・医療に大きなブレイクスルーをもたらすものと期待される。本コースでは、医学システム生物学、バイオマテリアル学、イメージング・ターゲティング学の3つの研究領域に焦点を合わせ、関係する医学研究科教員（更には医学研究科人間健康科学系専攻、工学研究科、情報学研究科教員）が密に連携して、これらの融合研究を開拓、展開しうる広い視点と技術をもった学生の養成をはかる。具体的には、講義に連携した系統的演習と実習により、学生に基本的な知識と基本的技術を修得させるとともに、それらを基盤に個別研究に発展させるべく指導を行う。

◎医療DXコース

情報通信技術の医療適用や、SaMD（Software as a Medical Device）開発などの医療DXを導くための知識と技術習得の機会を提供する。SBL/PBL/FBLを通じて、医療情報を取り巻く法制や導入の基礎技能を議論するとともに、京大病院電子カルテ二次利用系クラウドシステムを用いて情報分析・AI開発デプロイ手法等を体験する機会を提供する。本大学院コースは、医療DX教育研究センターが法学研究科法政策共同研究センター、国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センターと共同で提供する。

◆京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻について

1. 京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻の概要

京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻では、ゲノム解析において世界トップクラスの京都大学とマギル大学が緊密な連携のもとジョイント・ディグリープログラムを実施することで、互いの大学の特徴を活かした、相互補完的かつ単一大学では成し得ない質の高い教育研究を推進し、生命ビッグデータを活用した様々な解析技術を習熟し、今後の予防医学の発展に貢献できる人材の育成を行う。

2. 京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻の教育課程

京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻博士課程の修了の要件は、4年以上在学し、下記の要件を満たしていることとする。

- ①京都大学開講の必修科目4科目12単位とマギル大学開講の必修科目2科目6単位を修得すること。
- ②京都大学開講の選択科目のうち2科目4単位以上とマギル大学開講の選択科目のうち2科目6単位以上を修得すること。
- ③共同開設科目2単位を修得すること。
- ④各科目の成績評価の総平均がB以上であること。
- ⑤必要な研究指導を受けたうえ、学位調査委員会による学位論文の公開審査試験に合格すること。

履修方法は以下のとおりとする。

- ・原則として履修期間内の1年間は連携相手方大学に滞在し、授業科目の履修と研究を行う。
- ・授業科目の履修は2年次までに終わることを原則とするが、3年次以降での履修も可能とする。
- ・学生は両大学から配置する各1名の指導教員とともに1年次の早い時期に学位論文執筆のための研究テーマの具体的内容について検討し、研究計画を立てて研究を開始する。
- ・両指導教員の指導の下で3年次後期から学位論文の作成を開始する。

[授業科目及び修得すべき単位数]

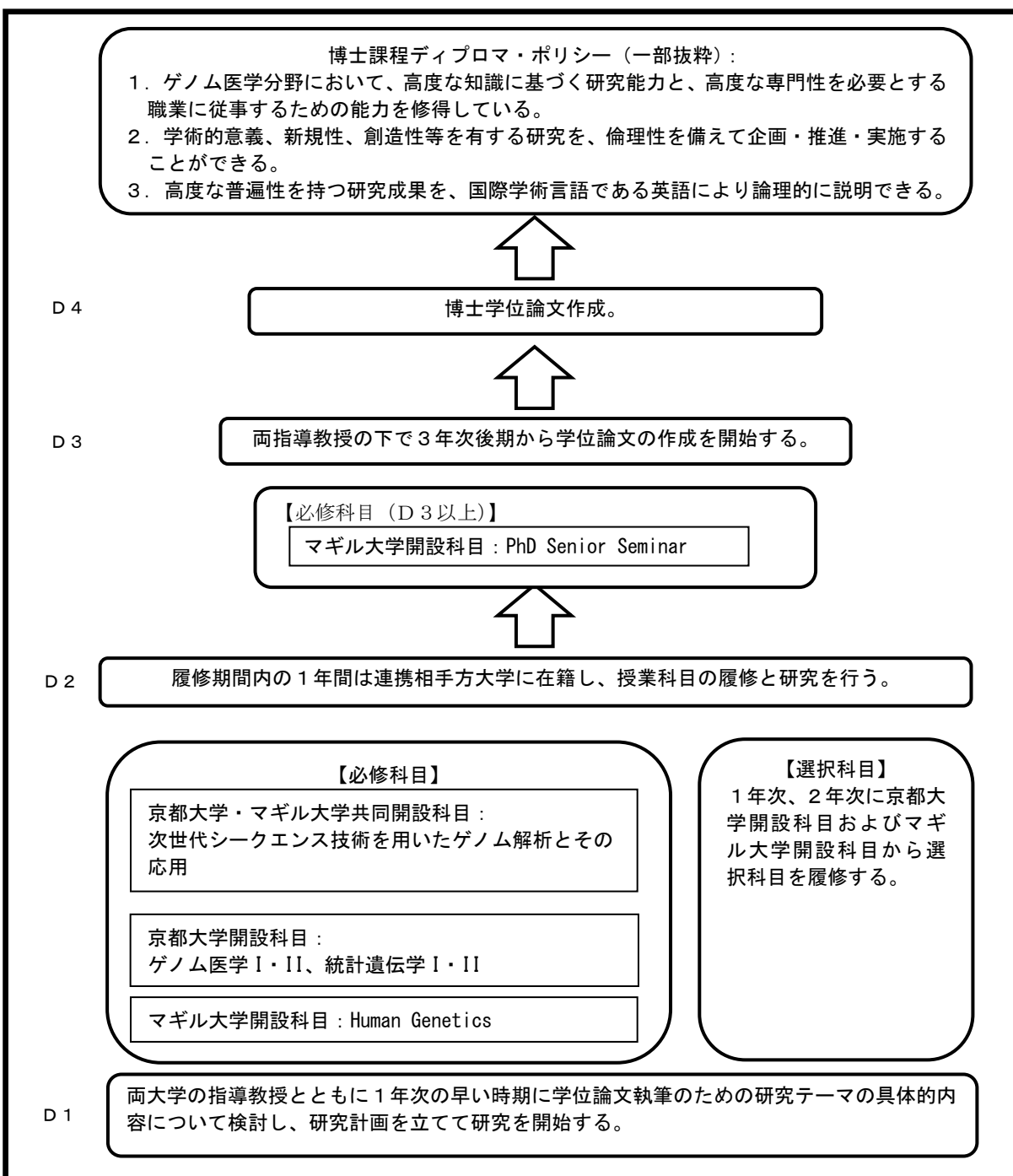
*詳細な時間割は医学研究科ホームページに掲載します。

	科目コード	科目名	開講期		単位	講義内容
			前期	後期		
京都大学・マギル大学共同開設科目						
必修	S001000	次世代シーケンズ技術を用いたゲノム解析とその応用		後期集中	2	講義・演習
京都大学開設科目						
必修	S002000	ゲノム医学Ⅰ	○		4	講義・演習
	S003000	ゲノム医学Ⅱ		○	4	講義・演習
	S004000	統計遺伝学Ⅰ	集中		2	講義・演習 (2023年度は開講せず)
	S005000	統計遺伝学Ⅱ		集中	2	講義・演習 (2023年度は開講せず)
選択	S011000	統計的学習Ⅰ	集中		2	講義・演習
	S012000	統計的学習Ⅱ		集中	2	講義・演習
	S013000	ゲノム・オミックス解析手法Ⅰ	集中		2	演習
	S014000	ゲノム・オミックス解析手法Ⅱ		集中	2	演習
マギル大学開設科目						
必修		Human Genetics		(秋学期)	3	講義
		PhD Senior Seminar	3 rd year or more		3	演習
選択		Genetics and Bioethics		(秋学期)	3	講義
		Population Genetics		(冬学期)	3	講義
		Beyond the Human Genome		(冬学期)	3	講義
		Advances in Human Genetics 1		(秋学期)	3	講義
		Research Internship		(冬学期)	3	講義
		Stem Cell Biology		(秋学期)	3	講義

選 択	Lab Course in Genomics	(冬学期)	3	講義・演習
	Statistics Concentrated in Genetic & Genomic Analysis	(秋学期)	3	講義
	Inherited Cancer Syndromes	(冬学期)	3	講義
	Host Responses to Pathogens	(秋学期)	3	講義
	Using Bioinformatics Resources	(秋学期)	3	講義
	Psychiatric Genetics	(秋学期)	3	演習
	Techniques in Molecular Genetics	(冬学期)	3	講義・演習
	Topics on the Human Genome	(冬学期)	3	講義
Human Biochemical Genetics	(冬学期)	3	講義	

注) 原則として、京都大学で1年間(年度)に履修科目として登録することができる単位数は42単位を超えることはできない。

3. 京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻博士課程のコースツリー



◇ **京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻各研究分野の研究内容及び指導内容**

京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻の各研究分野の研究内容及び指導内容については、医学専攻を参照すること。

◆医科学専攻について

1. 医科学専攻の概要

近年のライフサイエンスの発展により、医学・医療を取り巻く環境は大きく変革し、医学分野における教育・研究の内容も複雑・高度化している。特に、医師養成と基礎医学の研究を主目的とする伝統的な医学教育・研究に加えて、生命科学の飛躍的発展に伴い得られた膨大な情報を的確に処理し、いかにして有効かつ適切に実際の医療の現場に活かしていくかが課題となっている。

また、医療現場では、患者の意識向上と相俟って、高度な機器を利用しての的確な診断が求められ、その診断技術や医療機器の研究開発が日々続けられているなか、高齢化社会の到来を控え、その進展に寄せられる期待は益々大きなものとなっている。こうした伝統的な医学の枠組みを越えた融合領域の創生とそれを担い上げる研究者・教育者の養成は、研究教育の中核を担う大学に課せられた大きな使命である。

本専攻では、医学に対する社会的要請に応え、その使命を果たすべく、理学・工学分野等にバックグラウンドを持つ学生に対し、従来と異なる視点に立って医学に関する知識を教育することによって、既存の枠を越え、高度な専門的知識・技術と医学を結んだ新たな医科学の研究者・教育者を養成しようとするものである。

2. 修士課程の教育課程

指導教員の研究分野に所属し、演習を通して個人指導を行うことで修士論文を作成する。

修了要件は、2年以上在学し、研究指導を受け、30単位以上を修得し、修士論文の審査及び試験に合格することである。

[授業科目及び修得すべき単位数] *詳細な時間割は医学研究科ホームページに掲載します。

	科目コード	科目名	開講期		単位	講義内容
			前期	後期		
必修	E001000	医学英語		○	2	
		医科学演習Ⅰ	1年次		5	配属先における研究演習
		医科学演習Ⅱ	2年次		5	配属先における研究演習
選択必修		大学院教育コース(修士演習)	通年		4	参加する大学院教育コースの科目
		大学院教育コース(修士実習)	通年		2	参加する大学院教育コースの科目
選択	E060000	エッセンシャル解剖学	○		2	人間健康科学科2回生配当科目 解剖学
	E061000	エッセンシャル生理学Ⅰ	○		2	人間健康科学科2回生配当科目 生理学Ⅰ
	E062000	エッセンシャル生理学Ⅱ	○		2	人間健康科学科2回生配当科目 生理学Ⅱ
	E064000	エッセンシャル病理学	○		2	人間健康科学科2回生配当科目 病理学
	E003000	組織学		(秋学期)	2	医学科2回生 B4a 組織学
	E004000	発生学		(秋学期)	2	医学科2回生 B3 発生学
	E006000	生理学Ⅰ		(秋学期)	2	医学科2回生 B5a 生理学
	E007000	生理学Ⅱ		(秋学期)	4	
	E027000	神経科学		(秋学期)	6	医学科2回生 B6a 神経科学
	E036000	神経解剖学実習		(秋学期)	1	医学科2回生 B6b 神経解剖学実習
	E010000	微生物学Ⅰ		(冬学期)	2	医学科2回生 B7a 微生物学
	E011000	微生物学Ⅱ		(冬学期)	4	
	E009000	免疫学	(春学期)		4	医学科3回生 B8 免疫学
	E012000	病理学Ⅱ	(春学期)		4	医学科3回生 B9 病理学総論
	E015000	薬理学Ⅰ	(春学期)		2	医学科3回生 B11a 薬理学
	E016000	薬理学Ⅱ	(春学期)		4	
	E013000	法医学Ⅰ	(春学期)		2	医学科3回生 B12a 法医学
	E014000	法医学Ⅱ	(春学期)		4	
	E031000	遺伝医学	(春学期)		2	医学科4回生 C13 遺伝医学・医の倫理
	E021000	社会医学	(春学期)		2	医学科4回生 B13 社会・環境・予防医学
	M046000	医療工学特別講義		集中	2	LIMS(人間健康・薬学・工学と合同)注5)
	E037000	創薬医学概論		通年(不定期)	2	創薬医学講座
	E035000	ゲノムインフォマティクス		○	2	創薬医学講座
	E065000	医学研究技術実習		通年	2	医学研究関係機器の知識・技能の習得に関する実習

選択	E033000	病院実習			2	病院診療臨床研究の見学(2023年度開講未定)
	E029000	医療統計学	○		2	社会健康医学系専攻 医療統計学
	E030000	医療統計学実習	○		2	社会健康医学系専攻 医療統計学実習
	M050M01	医療情報法制学		○	2	注5)
	M051000	医療情報学実習		○	2	注5)
	Z203000	グローバルヘルス通論		○	2	英語により開講される科目
	E068000	橋渡し研究・臨床研究マネジメント	集中		2	医学部附属病院先端医療研究開発機構
		英語により開講される科目	○	○		詳細は以下の一覧を参照。

注

- 平成 26～30 年度入学者は、必修科目 14 単位、選択科目 16 単位以上、合計 30 単位以上を修得すること。平成 31 年度以降入学者は、必修科目 12 単位、選択必修科目 6 単位、選択科目 12 単位以上、合計 30 単位以上を修得すること。
- 選択科目として、社会健康医学系専攻専門職学位課程知的財産経営学プログラムの知的財産領域必修科目を履修することもできる。
卓越大学院プログラム履修者で「(医学領域) フロンティア型人材育成特別講義」「医療ヘルスケア・イノベーション起業家育成プログラム」(2022 年度不開講) の単位を修得した場合は、選択科目として認められる。
また、リーディング大学院「充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム」(LIMS) の提供科目の一部(「医療工学特別講義(LIMS)」を除く)を、選択科目として最大 4 単位まで単位認定を認めることがある。
この場合、当該科目の履修届(担当教員の了承)が事前に必要となるので、注意すること。
- 原則として 1 年間(年度)に履修科目として登録することができる単位数は 42 単位を超えることはできない。
ただし、次の場合は超過を認める。
 - リーディングプログラムの履修者がリーディングプログラム科目を履修する場合
 - 政策のための科学プログラムの履修者が政策のための科学プログラム科目を履修する場合
 - 社会健康医学系専攻特別コース・特別プログラム(MCR コース、遺伝カウンセラーコース、1 年制 MPH コース、知的財産経営学プログラム、臨床統計家育成コース)の履修者が、特別コース・特別プログラムにおける必修科目等を履修する場合
- 学部全学共通科目では、履修者数の制限を行う科目があるので注意すること。また、同名の科目の重複履修は認めない。
- 医療工学特別講義、医療情報法制学、医療情報学実習の 3 科目は人間健康科学系専攻で開講されるので、他研究科聴講手続で履修すること。単位を修得した場合は選択科目として認められる。
- 同一科目を複数合格した場合でも、修了に必要な単位として認められるのは、修得年度の早いもの 1 つのみです。

英語により開講される科目

以下の科目は選択科目です。KULASIS の全学共通科目で時間割を確認し、履修登録してください。

	科目コード	科目名	開講期	単位	講義内容・曜時限
選択		Principles of Genetics-E2	○	2	火 2
		Introduction to Molecular Biotechnology-E2	○	2	火 3
		Introduction to Biochemistry-E2		○	2 火 2 または 3
		Introduction to Behavioral Neuroscience A-E2	○	2	金 5
		Introductory Statistics-E2	○	2	金 3
		Introduction to Behavioral Neuroscience B-E2		○	2 金 5
		Introduction to Medical Psychology-E2		○	2 金 4
		Nutrition and Health-E2		○	2 未定
		Biology and Sociology of Chronic Diseases-E2	○	2	未定

3. 医学研究科大学院教育コース（修士）

① 大学院教育コース（修士）の目的

- 1) 基礎・臨床系・社会医学系・人間健康科学系を横断する11の「大学院教育コース（修士）」を設置し、医科学研究を推進するために必要となる幅広い素養・自主性・知識・技術の系統的な修得に備える。
- 2) 大学院生は1つの専門分野に所属し研究するとともに、指導教員とともに研究テーマに関連のあるいずれかのコースに参加する。これにより徹底した個人指導とともに普遍性かつ広範な知識と技術を修得する。その結果、新たな視点の導入や共同研究の可能性など異なった視点からの研究展開も検討される。
- 3) 11の大学院教育コースでは、所属分野で取得不可能な技術を参加教室での実習ローテーションにより取得するとともに、定期的に行われるコースミーティング（研究会）で研究成果・経過を発表し、相互討論を行い、コースに参加している他分野の教員より助言を受ける。すなわち、学生の自主性に従って随時必要な視点からの適切なアドバイスが受けられる。
- 4) 指導的研究者育成をめざす本研究科の目的に基づき、学生は、これらの場である各コースの研究発表会・ミーティングやプログラム作成などにあたり、自主的な教育・運営能力も習得する。
- 5) 国際的コミュニケーション能力、研究・医療倫理、知的財産管理等を全コース共通の集中講義により修得する。
- 6) コース参加教員はコース毎にコース会議を組織し、学生の取得目標の設定、技術指導・目標達成度のチェック、集中講義、先端セミナーなどを行う。

② 大学院教育コース（修士）の履修について

例えば、同じ教室・分野に所属する学生Aは、教員Xと共に発生・細胞生物学・システム生物学コースに参加し、学生Bは、教員Yと共に免疫・アレルギー・感染コースに参加する。また学生Aが研究テーマの展開・発展に伴い腫瘍学コースにも参加することも可能である。他分野からの教員・学生が参加する各コースでの研究発表会で相互討論し、個々の分野では得られない技術および助言を受ける。さらにRIセンター、動物実験センター、形態学技術支援、プロテオミクス解析、動物行動解析、医学・生物統計相談等の技術支援も適宜受ける。基礎・臨床の教室の教員も同じコースに参加し、参加コースも流動的でよいこととする。全コース共通テーマとして、国際的に通用するコミュニケーション能力、研究倫理、知的財産などの集中講義、セミナーなども行う。

コース登録・管理はコース事務局が行う。コースミーティング（研究会）は月1回（年10回）行い、年1～2回の合宿研究会も開催する。各コースで学生主導の研究プログラムの作成と成果討議の機会を通して、自立した研究者としての教育が行われる。

③ 単位について

大学院教育コース（修士）ごとに、演習（4単位）、実習（2単位）が付与される。

履修評価は主にミーティング及び合宿の出席・発表等で判断される。また、各コース共通の講義・実習等が開講され、それらへの参加の有無も加味される。共通の講義・実習等については決定次第大学院教育コースホームページ (<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/edcourse/>) にて通知する。

2023年度 大学院教育コース（修士） 授業科目一覧表

科目コード	科目名	責任教員（オーガナイザー）	単位	授業で主に使用する言語
E054000	発生・細胞生物学・システム生物学（修士演習）	渡邊（直）教授（神経・細胞薬理学）	4	英語
E055000	発生・細胞生物学・システム生物学（修士実習）	渡邊（直）教授（神経・細胞薬理学）	2	英語
E038000	免疫・アレルギー・感染（修士演習）	生田教授（免疫制御分野）	4	英語
E039000	免疫・アレルギー・感染（修士実習）	生田教授（免疫制御分野）	2	英語
E040000	腫瘍学（修士演習）	小川教授（腫瘍生物学）	4	英語
E041000	腫瘍学（修士実習）	小川教授（腫瘍生物学）	2	英語
E042000	神経科学（修士演習）	渡邊（大）教授（生体情報科学）	4	英語
E043000	神経科学（修士実習）	渡邊（大）教授（生体情報科学）	2	英語
E044000	生活習慣病・老化・代謝医学（修士演習）	柳田教授（腎臓内科学）	4	英語

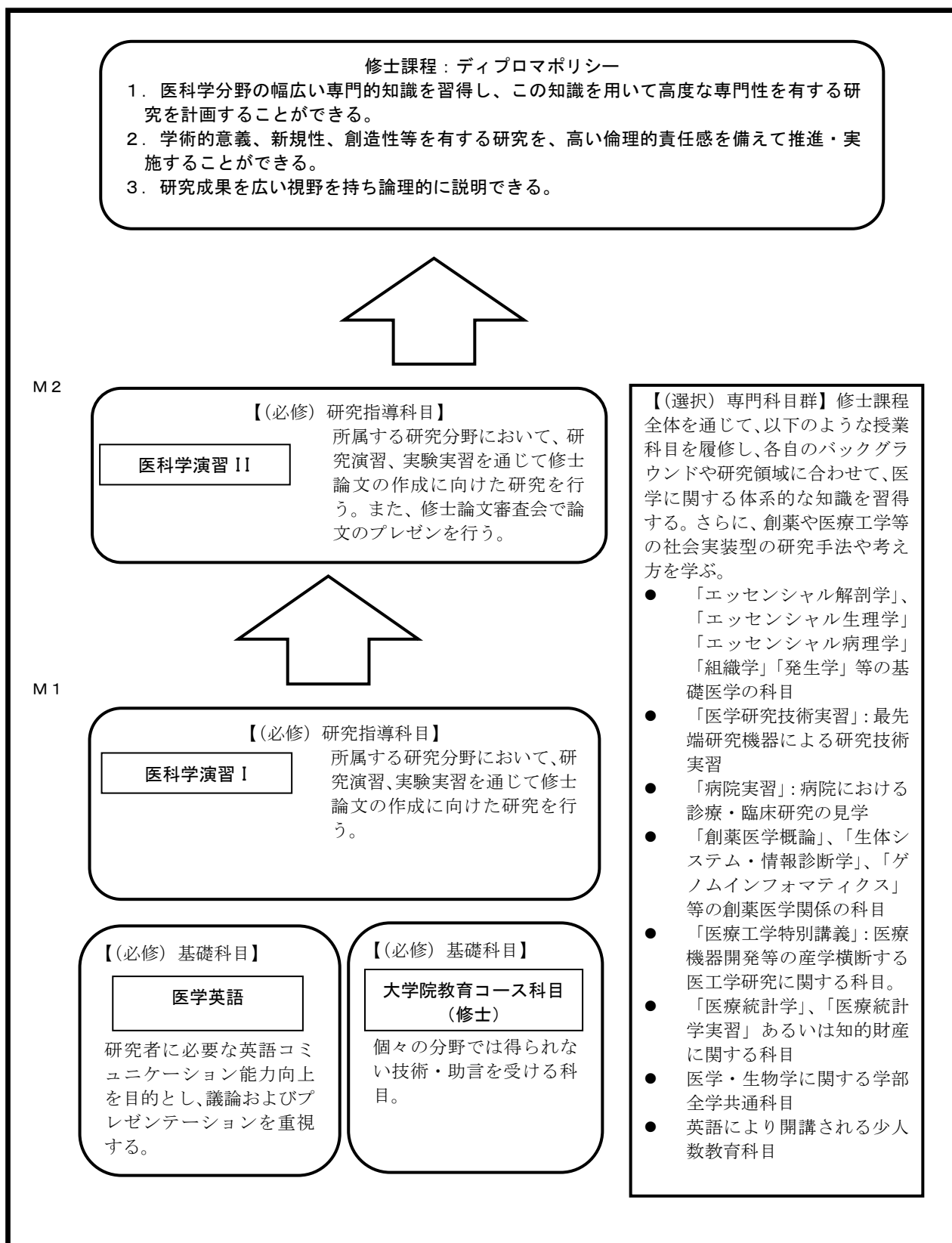
E045000	生活習慣病・老化・代謝医学（修士実習）	柳田教授（腎臓内科学）	2	英語
E046000	再生医療・臓器再建医学（修士演習）	長船教授（応用再生医学研究）	4	英語
E047000	再生医療・臓器再建医学（修士実習）	長船教授（応用再生医学研究）	2	英語
E066000	社会健康医学・臨床疫学研究（修士演習）	今中教授（医療経済学）	4	日本語
E067000	社会健康医学・臨床疫学研究（修士実習）	今中教授（医療経済学）	2	日本語
E052000	医工情報学連携（修士演習）	中本教授（画像診断学・核医学）	4	日本語
E053000	医工情報学連携（修士実習）	中本教授（画像診断学・核医学）	2	日本語
E069000	医療 DX（演習）	黒田教授（医療情報学）	4	日本語
E070000	医療 DX（実習）	黒田教授（医療情報学）	2	日本語
M052002	リハビリテーション科学（修士演習）※	青山教授（運動機能解析学）	4	日本語
M053002	リハビリテーション科学（修士実習）※	青山教授（運動機能解析学）	2	日本語
M052003	メディカル AI（修士演習）※	奥野教授（ビッグデータ医科学）	4	日本語
M053003	メディカル AI（修士実習）※	奥野教授（ビッグデータ医科学）	2	日本語
M052001	ケアリング科学（修士演習）※	木下教授（在宅医療・認知症学）	4	日本語
M053001	ケアリング科学（修士実習）※	木下教授（在宅医療・認知症学）	2	日本語

※人間健康科学系専攻が開講しているコース

④ 「大学院教育コース」の概要

医学専攻博士課程 51 頁に記載しています。（人間健康科学系専攻開講コースは除く）

4. 修士課程のコースツリー



5. 博士後期課程

本専攻の修士課程において医学分野の基礎的な知識と医科学研究の基礎トレーニングを経て修得した者はその知識をベースにさらに教育を行い、融合領域の研究を推進する優れた医科学研究者を育成する。

生物学関連分野はもとより数学・物理学・化学・情報学分野など、修士課程までは医学教育に接したことがない者には、その異分野において蓄積した知識をベースに医学の複雑で多彩な病態現象に触れることにより、同じく融合領域の研究を推進する優れた医科学研究者を育成する。

修了要件は、3年以上在学し、所要科目13単位（主科目7単位、大学院教育コース科目6単位）以上を修得し、研究指導を受け、かつ、博士論文の審査及び試験に合格することである。

2022年度入学者より、大学院教育コースにおいて中間ヒアリングとチューターシステムを導入することにより、大学院生の研究進捗状況をチェックし、必要に応じてアドバイスを与えることによって研究レベルの向上をサポートする体制を強化する。医科学専攻博士後期課程ではD2で研究進捗状況をチェックし、適切な研究方針で研究しているか、順調に研究が進展しているかなどを確認・審査する。

[授業科目及び修得すべき単位数]

	科目コード	科目名	単位数	担当教員
主科目 (必修)		医科学講義	2	所属分野の教員
		医科学演習	2	所属分野の教員
		医科学実習	3	所属分野の教員
大学院 教育 コース 科目 (選択必修)	P029000	発生・細胞生物学・システム生物学(演習)	4	渡邊(直)教授(神経・細胞薬理学)
	P030000	発生・細胞生物学・システム生物学(実習)	2	渡邊(直)教授(神経・細胞薬理学)
	P005000	免疫・アレルギー・感染(演習)	4	生田教授(免疫制御)
	P006000	免疫・アレルギー・感染(実習)	2	生田教授(免疫制御)
	P007000	腫瘍学(演習)	4	小川教授(腫瘍生物学)
	P008000	腫瘍学(実習)	2	小川教授(腫瘍生物学)
	P011000	神経科学(演習)	4	渡邊(大)教授(生体情報科学)
	P012000	神経科学(実習)	2	渡邊(大)教授(生体情報科学)
	P013000	生活習慣病・老化・代謝医学(演習)	4	柳田教授(腎臓内科学)
	P014000	生活習慣病・老化・代謝医学(実習)	2	柳田教授(腎臓内科学)
	P015000	再生医療・臓器再建医学(演習)	4	長船教授(応用再生医学研究)
	P016000	再生医療・臓器再建医学(実習)	2	長船教授(応用再生医学研究)
	P017000	病理形態・病態医学(演習)	4	羽賀教授(病理診断学)
	P018000	病理形態・病態医学(実習)	2	羽賀教授(病理診断学)
	P033000	社会健康医学・臨床疫学研究(演習)	4	今中教授(医療経済学)
	P034000	社会健康医学・臨床疫学研究(実習)	2	今中教授(医療経済学)
	P027000	医工情報学連携(演習)	4	中本教授(画像診断学・核医学)
	P028000	医工情報学連携(実習)	2	中本教授(画像診断学・核医学)
	P035000	医療DX(演習)	4	黒田教授(医療情報学)
	P036000	医療DX(実習)	2	黒田教授(医療情報学)

※ 履修方法は、主科目（必修：所属研究分野の講義・演習・実習）7単位、2022年度入学者より、大学院教育コース科目を「演習」、「実習」をあわせて6単位以上を履修することとする。「実習」を履修するには同じコースの「演習」を取得することが条件となり、「実習」は中間ヒアリングに合格することで単位取得ができる。

「大学院教育コース」の概要は★頁に記載しています。

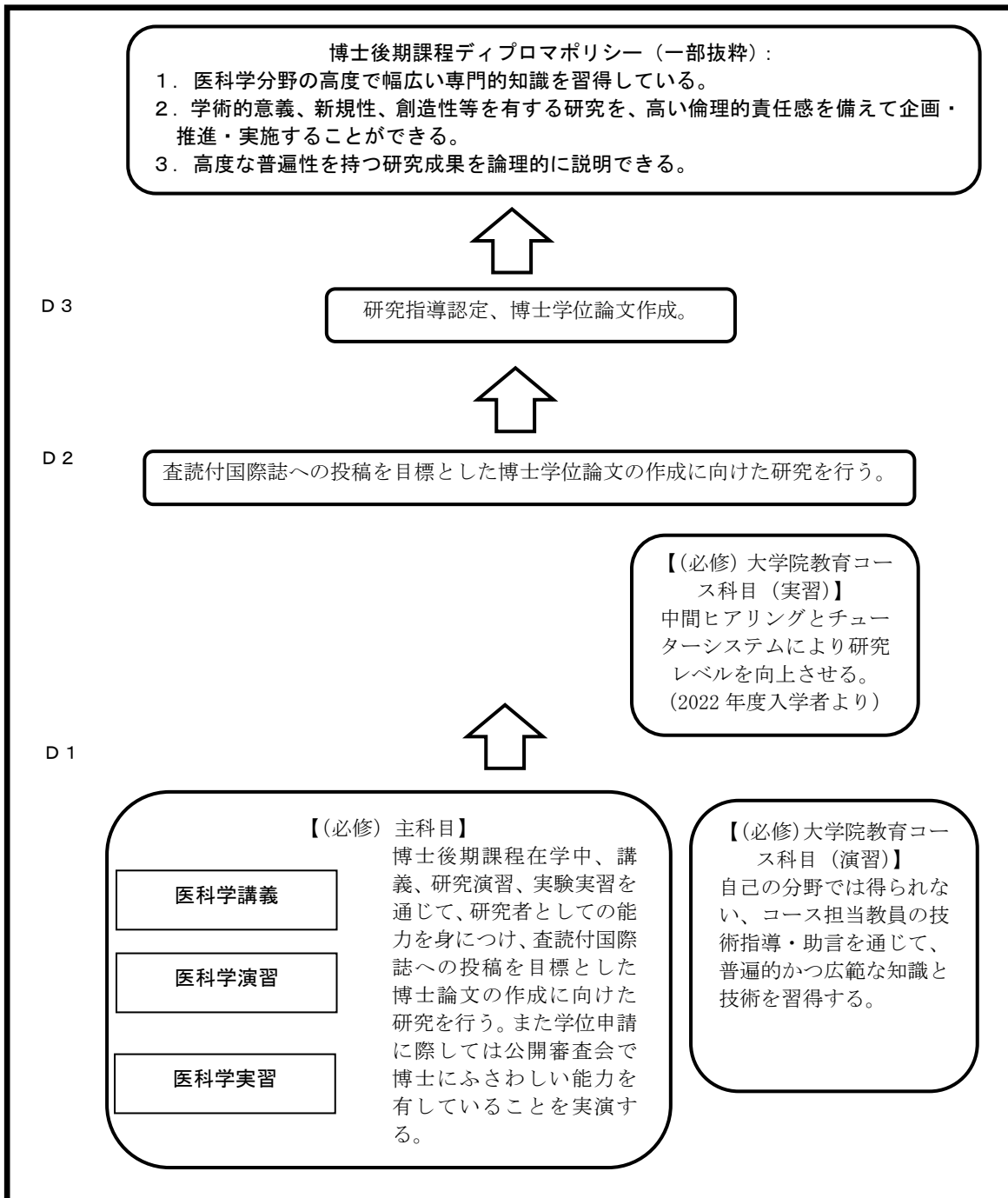
講義・演習・実習を通じて研究者としての基礎的能力を育成するとともに、学術論文作成のトレーニングを行う。課程修了までに、少なくとも筆頭著者としての論文1編を完成させ、外国雑誌に投稿させることを目標に研究指導を行う。

※ 原則として1年間（年度）に履修科目として登録することができる単位数は42単位を超えることはできない。

ただし、次の場合は超過を認める。

- (1) リーディングプログラムの履修者がリーディングプログラム科目を履修する場合
- (2) 政策のための科学プログラムの履修者が政策のための科学プログラム科目を履修する場合
- (3) 社会健康医学系専攻特別コース・特別プログラム (MCR コース、遺伝カウンセラーコース、1 年制 MPH コース、知的財産経営学プログラム、臨床統計家育成コース) の履修者が、特別コース・特別プログラムにおける必修科目等を履修する場合

6. 博士後期課程のコースツリー



◆社会健康医学系専攻について

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/>)

1. 本専攻の概要

社会健康医学系専攻の使命は、医学・医療と社会・環境とのインターフェースを機軸とし以下の活動とその相互作用を通じて、人々の健康と福祉を向上させることである。

○教育 (Teaching)

社会健康医学に関わる実務、政策、研究、教育において専門的かつ指導的役割を身につける幅広い教育を行う。

○研究 (Research)

人々の健康に関わる経済、環境、行動、社会的要因についての知識を深め、新しい知識と技術を生み出す。

○成果の還元 (Translating Research into Practice and Policy)

その成果を健康・医療に関わる現実社会の実践方策と政策に還元する。

○専門的貢献 (Professional Practice)

専門の知識と技術を持って、個人・組織・地域・国・世界レベルで貢献する。

健康に関する問題は非常に広い範囲にわたっており、本専攻の教員、学生のテーマや専門性も多岐に渡っている。本専攻には、定量的評価に不可欠な疫学、統計に関する基礎領域から、ゲノム情報と健康のかかわり、医療の質の評価や経済的評価、倫理的側面、社会への健康情報の発信、健康増進と行動変容、健康の社会的決定要因、健康格差、グローバルヘルス、感染症など危機管理に関する研究や気候変動など環境要因と健康に関する研究、ヘルスコミュニケーションや質的研究など、さまざまな教育・研究を推進する分野が設置されている。

2. 教育課程

本専攻は、専門職学位課程（実務者レベル）2年と博士後期課程（研究者、教育者レベル）3年に区分され、専門職学位課程は、さらに、基幹課程である2年制 MPH コースをはじめ、1年制 MPH コース、臨床研究者養成（MCR）コース（1年制）、遺伝カウンセラーコース（2年制）、臨床統計家育成コース（2年制）を含めて5コースに分かれている。

教育内容として、下記のコア5領域が定められており、これらの領域を構成する科目を、必修（コア領域1、2）、選択必修（コア領域3、4、5）と指定している。いずれのコースでも5領域から最低1科目（コア領域1は2科目）の履修を必要とする。

区分		科目コード	科目名	責任者	単位	備考
MPH コア 5領域	コア領域1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	中山	1	必修
		H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	山本（洋）	1	必修
	コア領域2	H001000	医療統計学	佐藤	2	必修
	コア領域3	H070000	感染症疫学	西浦	1	
		H124000	産業・環境衛生学	西浦	1	
	コア領域4	H166000	医療制度・政策・経済	今中	2	
		H126000	保健・医療の経済評価	今中	1	MCR コース 受講不可
		H127000	社会健康医学と健康政策	健康政策の 運営委員会	2	
		H109000	医薬政策・行政	川上	1	後期
	コア領域5	H075000	行動科学	田近	1	
		H076000	基礎医療倫理学	中島	1	
		H077000	医学コミュニケーション基礎	岩隈	1	
		H157000	社会疫学	近藤	2	

※前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

医学研究科人間健康科学系専攻、公共政策大学院、経営管理大学院、法学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、工学研究科、「グローバル生存学大学院連携プログラム」、「政策のための科学プログラム」の予め定められた科目の履修・単位取得が可能。ただし、修了に必要な単位とはならない。具体的にはシラバス巻末およびホームページを参照。

URL: <http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/syllabus.html>

(1) 専門職学位課程

専門職学位課程に2年以上(2年制コース)もしくは1年以上(1年制コース)在学し、下記の30単位以上を修得し、本専攻が定める教育課程を修了することが「社会健康医学修士(専門職)」取得の要件である。

なお、1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、原則42単位とする。ただし、特別コース・特別プログラム(1年制MPHコース、臨床研究者養成(MCR)コース、遺伝カウンセラーコース、臨床統計家育成コース、知的財産経営学プログラム)の履修者が、特別コース・特別プログラムにおける必修科目等を履修する場合は超過を認める。その他、やむを得ない事情により履修登録上限単位数を緩和する必要がある場合には、指導教員の申し出により超過を認めることがある。

[2年制MPHコース]

科目	「医療系」 出身者*	「医療系」以外 出身者
MPH コア 5 領域 (コア領域 1 - 5 のすべての領域を含む) (注1)	10	10
MPH 必修 (医学基礎 I (注3)・II、臨床医学概論) (注2)	—	6
課題研究	4	4
選択 (特別プログラムで指定されるものを含む)	16	10
計	30	30

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部の出身者

上記以外でかつ生物系等学部、医療系短期大学及び医療系専門学校の出身者であっても医療系の国家資格を取得できるコースの出身者が「医療系」出身者として認定を希望する場合は、一括認定の対象とする。

「上記の一括認定で認定されなかった者」で、「医療系」出身者としての認定を求める際は、入学時に申請が必要である。

(注1) MPH コア科目を10単位を超えて取得した場合は、選択科目として算入する。

(注2) MPH 必修を、「医療系」出身者の学生が取得した場合、学位取得に必要な30単位に算入することはできない。

(注3) 令和4年度以降は「医学基礎I」として、「医学基礎I(生理学I)」「医学基礎I(神経生理学)」「医学基礎I(解剖学)」あるいは「医学基礎I(基礎人類遺伝学)」のいずれか履修すること。

課題研究：専門職学位課程共通。テーマ毎に、最も適切な研究室に配属し、研究アイデアから研究プロトコルの作成、データ収集と解析、結果の考察などを経験し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションを行う者は、プレゼンテーションを行う当該年度に修了見込みの者に限られる。

既修得単位の認定：本専攻では上記コア領域科目の受講を推奨しているが、他大学院における取得単位について、コア領域1～5に相当する科目を対象に最大10単位以内を既修得単位として認定する場合がある。認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

[専門職学位課程特別コース・特別プログラム]

本専攻は、下記の特別コースを有する。これらの特別コースは入試枠が異なり、入学後にコース間の移動はできない。加えて、下記の如く、本専攻が修了を認める特別プログラムがある。

これらの詳細は、別途、「◇専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて」に後述する。

<特別コース>

- 1) 1年制MPHコース (1年で修了しうるが、修了要件は上記の2年制MPHコースと同じ。)
- 2) 臨床研究者養成(MCR)コース
- 3) 遺伝カウンセラーコース
- 4) 臨床統計家育成コース

<特別プログラム>

- 1) 知的財産経営学プログラム
- 2) 医療経営ヤングリーダー・プログラム

(2) MPH-DrPH 課程について

出願資格：1) 修士相当の学位を有する者 あるいは、2) 医師・歯科医師の内、2年以上の臨床経験あるいは卒業臨床研修を修了した者。

上記出願資格1)、2)の条件を満たし、専門職学位課程に引き続き本専攻博士後期課程に進学を希望する者で、学部あるいは修士の履修成績、入学試験および専門職学位課程入学後の成績も優秀であり、意欲と能力のある者は、審査を受け、本専攻博士後期課程の受験資格を認定された場合、専門職学位課程の修了要件を満し、かつ上記の博士後期課程入学試験に合格することにより、1年次修了時点で博士後期課程に進学できる。

受験資格の認定を希望する者は、前期にコア科目8単位以上を取得(見込)したうえで、MPH-DrPH課程の願書、志望理由書、指導教員の推薦書(注)と、修士相当の者は、1) 修士学位の証明と修士および学部の成績、あるいは医師・歯科医師の者は、2) 臨床経験あるいは卒業臨床研修と在職証明書を添えて8月4日(金)までに教務課大学院教務掛に提出すること(認定を希望する者は、提出に先立ち、教務課大学院教務掛に事前に相談すること)。

本課程は、あくまで、博士後期課程への進学を前提としたものであり、進学しない場合は、1年次修了は無効となる。

(注) 課題研究に関する情報(課題名、プロトコル、進捗状況を示す資料等)は必須ではないが、推薦書に添付することができる。

(3) 博士後期課程

博士後期課程に3年以上在学し、研究指導を受け、下記の所定単位を修得し、博士論文の審査および試験に合格することが「博士(社会健康医学)」取得の要件である。なお、1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、原則42単位とする。

2022年度入学者より、大学院教育コース「社会健康医学・臨床疫学研究」において学位論文の中間ヒアリングとチューターシステムを導入することによって、大学院生の研究進捗状況をチェックし、必要に応じてアドバイスを与えることによって研究レベルの向上をサポートする体制を強化する。2年次あるいは3年次に中間ヒアリングにおいてチューターが研究進捗状況をチェックし、適切な研究方針で研究しているか、順調に研究が進展しているかなどを確認・審査する。中間ヒアリングに合格することが「実習」2単位の修得要件となる。

【2021年度以前入学者】

科目	本専攻専門職学位課程修了者以外		本専攻専門職学位課程修了者	
	「医療系」出身者*	「医療系」以外出身者		
博士課程セミナー	6	6	6	
専門職学位課程授業科目	MPHコア5領域(コア領域1-5のすべての領域を含む)	7(領域1と領域2は、それぞれ2単位)	7(領域1と領域2は、それぞれ2単位)	—
	MPH必修(医学基礎I(注1)、医学基礎II、臨床医学概論)	—	6	—
計	13	19	6	

【2022年度以降入学者】

科目	本専攻専門職学位課程修了者以外		本専攻専門職学位課程修了者	
	「医療系」出身者*	「医療系」以外出身者		
博士課程セミナー	6	6	6	
大学院教育コース:社会健康医学・臨床疫学研究(演習)(1年次~)	4	4	4	
大学院教育コース:社会健康医学・臨床疫学研究(実習)(2年次~)	2	2	2	
専門職学位課程授業科目	MPHコア5領域(コア領域1-5のすべての領域を含む)	7(領域1と領域2は、それぞれ2単位)	7(領域1と領域2は、それぞれ2単位)	—
	MPH必修(医学基礎I(注1)、医学基礎II、臨床医学概論)	—	6	—
計	19	25	12	

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部の出身者

上記以外でかつ生物系等学部、医療系短期大学及び医療系専門学校出身者であっても医療系の国家資格を取得できるコースの出身者が「医療系」出身者として認定を希望する場合は、一括認定の対象とする。

「上記の一括認定されなかった者」で、「医療系」出身者としての認定を求める際は、入学時に申請が必要である。

(注1) 令和4年度以降は「医学基礎Ⅰ」として、「医学基礎Ⅰ(生理学Ⅰ)」「医学基礎Ⅰ(神経生理学)」「医学基礎Ⅰ(解剖学)」あるいは「医学基礎Ⅰ(基礎人類遺伝学)」のいずれか履修すること。

※既修得単位の認定：本専攻では上記コア領域科目の受講を推奨しているが、他大学院における取得単位について、コア領域1～5に相当する科目を対象に最大7単位以内を既修得単位として認定する場合がある。認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

令和5年度 社会健康医学系専攻 専門職学位課程 全授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		担当教員	単位	備考	レベル
			前期	後期				
MPH コア 必修	H118000	領域1 疫学Ⅰ（疫学入門）	○*		中山教授	1		基礎
	H119000	領域1 疫学Ⅱ（研究デザイン）	○前半		山本教授	1		基礎
	H001000	領域2 医療統計学	○		佐藤教授	2		基礎
MPH コア 選択 必修	H070000	領域3 感染症疫学	○後半		西浦教授	1		基礎
	H124000	領域3 産業・環境衛生学	○前半		西浦教授	1		基礎
	H166000	領域4 医療制度・政策・経済	○		今中教授	2		中級
	H127000	領域4 社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2		基礎
	H109000	領域4 医薬政策・行政		○前半	川上教授	1		中級
	H126000	領域4 保健・医療の経済評価	○前半		今中教授	1	MCR コース生は 受講不可	中級
	H075000	領域5 行動科学	○前半		田近准教授	1		基礎
	H076000	領域5 基礎医療倫理学	○前半		中島准教授	1		基礎
	H077000	領域5 医学コミュニケーション基礎	○前半		岩隈准教授	1		基礎
	H157000	領域5 社会疫学	○		近藤教授	2		基礎
MPH 必修	H154000	医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）	○前半		西浦教授	2	「医療系」以外の出 身者のみ1つだけか つを選択必修	基礎
	H163000	医学基礎Ⅰ（神経生理学）		○前半	西浦教授	2		基礎
	H153000	医学基礎Ⅰ（解剖学）	○前半		西浦教授	2		基礎
	H164000	医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）	○		和田特定教授	2		基礎
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	尾野准教授・加藤准 教授・塩見助教・山 地助教・河田講師	2	「医療系」以外の出 身者のみ必修	基礎
	H008000	臨床医学概論		○	奥野講師・錦織助教・岩 碓講師・星野特定講師・ 千葉非常勤講師	2		基礎
(別表)	課題研究	2年次		所属分野の指導員	4		—	
MPH 選択	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2		中級
	H084000	観察研究の統計的方法	○*		佐藤教授	2		応用
	H093000	文献検索法	○前半		高橋准教授	1		基礎
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1		基礎
	H115000	ヘルスサイエンス研究の進め方	○*		中山教授	1		基礎
	H129000	医療の質評価	○後半		今中教授	1		中級
	H162000	毒性科学	○		原田准教授	2		基礎
	H103000	医療社会学・基礎	○後半		岩隈准教授	1		基礎
	S004000	統計遺伝学Ⅰ	集中*			2	2023年度は開講 せず	中級
	H112000	臨床試験	○		田中司朗特定教授	2		中級
	H134000	統計家の行動基準	○*		佐藤教授	1		応用
	H143000	健康デザイン論	通年・集中*		中山教授	1		応用
	H136000	統計的推測の基礎	○		大森特定教授	2		中級
	H137000	生存時間解析		集中	大森特定教授	1		応用
	H138000	統計モデルとその応用		集中	大森特定教授	1		応用
	H142000	行政医学・産業医学	集中		今中教授	2		応用
	H145000	多重性の考え方	○前半		大森特定教授	1		中級
	M001000	アントレプレナーシップ	○		寺西非常勤講師	2		基礎
	M026000	メディカル分野技術経営学概論	○		山本非常勤講師	2		基礎
	M017000	知的財産経営学基礎	○		早乙女特定教授	2		基礎
	M021000	アントレプレナーシップ特論	集中		早乙女特定教授	2		応用
	M024000	特許法特論・演習（前期）	○		高山非常勤講師・ 東田非常勤講師	2		基礎
	N015000	遺伝医療と倫理・社会	○*		和田特定教授	2		基礎
	H040000	基礎人類遺伝学	○		和田特定教授	2		基礎
	N021000	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	○*		中島准教授	3		基礎

区分	科目コード	科目名	期間		担当教員	単位	備考	レベル
			前期	後期				
MPH 選択	N017000	遺伝医学特論（集中講義）	2年次		中島准教授	2		応用
	H158000	地域保健活動論		○前半	近藤教授	2		応用
	H020000	人間生態学		○	坂本准教授	2		基礎
	H021000	交絡調整の方法		○	大森特定教授	2		中級
	H022000	解析計画実習		○	大森特定教授	2		応用
	H159000	環境曝露・リスク評価		○	原田准教授	2		中級
	H032000	ベンチトレーニングコース（On the Bench Training Course）		集中	原田准教授	2		応用
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2		応用
	H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1		中級
	M004000	契約実務演習		○	鈴木特定准教授	2		基礎
	M007000	知的財産法演習		○	當麻非常勤講師	2		中級
	M025000	特許法特論・演習（後期）		○	田中順也非常勤講師	2		中級
	M028000	創薬医学特論		○	早乙女特定教授	1		応用
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2		応用
	N018000	医療倫理学各論		○*	中島准教授	2		応用
	S005000	統計遺伝学Ⅱ		集中*		2	2023年度は開講せず	中級
	H130000	健康情報学Ⅰ		○	中山教授	2		中級
	H151000	健康情報学Ⅱ		○*	高橋准教授	2		中級
	H160000	質的研究・演習	通年・集中		岩隈准教授	2		中級
	H132000	エビデンスユーザ入門	通年*		古川教授	2		基礎
	H156000	質的研究入門	○後半		中山教授・河野特定助教	1		基礎
	H152000	環境・感染症論		○	山崎教授	2		中級
	H135000	臨床試験の統計的方法		○前半	田中司朗特定教授	1		応用
	H063000	フィールドワーク	通年・集中*		松田教授・田原教授	2	不開講	中級
	H061000	社会健康医学課外実習	集中		所属分野の指導員等	1-2	インターンシップ	—
	Z203000	グローバルヘルス通論		○	中山教授	2		中級
	H161000	感染症数理モデル入門	集中		西浦教授	2		応用
	H165000	ポストコロナ社会のイノベーション:展望と自由提言	通年		今中教授	2		応用
	H167000	QOL・PRO 評価法		○*	山本教授	1		中級
	H169000	公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション	集中		中山教授	1		応用
H170000	健康危機管理	通年		今中教授	1		応用	
限定 科目	H082000	医療経営特別カリキュラムⅠ	集中		今中教授	2	医療経営ヤングリーダー・プログラム 限定	応用
	H083000	医療経営特別カリキュラムⅡ		集中	今中教授	2		応用
	H053000	医療経営ケーススタディ	通年・集中		今中教授	2		応用
	K026000	臨床研究計画Ⅰ	○		川上教授	1	MCR 限定必修	応用
	K028000	臨床研究計画法演習Ⅰ	○		山本教授	1	MCR 限定必修	応用
	K030000	医療技術の経済評価	○前半		今中教授	1	MCR 限定必修	応用
	K027000	臨床研究計画Ⅱ		○	川上教授	1	MCR 限定必修	応用
	K029000	臨床研究計画法演習Ⅱ		○	山本教授	1	MCR 限定選択	応用
	K020000	EBM・診療ガイドライン特論		○	中山教授	1	MCR 限定選択	応用
	K025000	臨床研究データ管理学		○前半	田中（佐）特定教授	1	MCR 限定選択・CB 限定必修	応用
	K034000	臨床研究特論		○	石見教授	2	MCR 限定選択	応用
	K036000	系統的レビュー	夏季集中		古川教授	1	MCR 限定選択	応用
	K033000	データ解析法特論	○後半		山本教授	1	MCR 限定選択	中級
	K035000	社会疫学研究法	○後半		近藤教授	1	MCR 限定選択	中級
	N022000	基礎人類遺伝学演習		1年次	和田特定教授・吉田特定助教	1	GC 限定	応用

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	レベル
			前期	後期				
	N006000	臨床遺伝学演習（ロールプレイ演習）		1年次*	和田特定教授・鳥嶋特定助教	1	GC 限定	応用
	N020000	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論	通年*		和田特定教授	3	GC 限定	基礎
	N007000	遺伝カウンセリング演習 1	1年次（隔週）		川崎特定講師	2	GC 限定	基礎
	N008000	遺伝カウンセリング演習 2	2年次（隔週）		川崎特定講師	2	GC 限定	応用
	N009000	遺伝カウンセリング実習 1	1年次		中島准教授	2	GC 限定	基礎
	N010000	遺伝カウンセリング実習 2	2年次		中島准教授	4	GC 限定	応用
	H168000	遺伝サービス情報学	○後半		川崎特定講師	1	GC 限定	基礎
	H139000	臨床統計家の実務スキル	○		大森特定教授	1	CB 限定選択	基礎
	H144000	統計的推測の基礎・演習	○*		大森特定教授	1	CB 限定選択	中級
	H146000	メタアナリシス	集中		田中司朗特定教授	1	CB・MCR 限定選択	応用
	H140000	臨床研究実地研修 I	通年・集中		田中司朗特定教授	2	CB 限定必修	応用
	H147000	臨床研究実地研修 II	通年・集中		田中司朗特定教授	2	CB 限定選択	応用

MCR＝臨床研究者養成コース、知財＝知的財産経営学プログラム、GC＝遺伝カウンセラーコース、CB＝臨床統計家育成コース

限定科目：該当する特別プログラムの者に限り履修可。

[期間] *マークは、開講日注意。 [レベル] 基礎：予備知識を必要としないレベル、中級：一定の予備知識や経験を求めるレベル、応用：社会での実践や研究へ応用できるレベル、空欄：各シラバス参照

医学基礎 I（基礎人類遺伝学）と基礎人類遺伝学の両方を履修することはできない。

2022 年度までに「医療制度・政策」、「世界における医療制度・政策」、「行動経済学と健康医療介護」3 科目（各 1 単位）のすべてを取得した学生は、「医療制度・政策・経済」を修得しても修了に必要な単位に算入することができない。

※ 前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表 3) 科目変更対応表」を確認すること

(別表 1) 課題研究及び博士課程セミナー科目コード

研究分野	科目コード		
	課題研究(専門職学位課程)	[MCR]	博士課程セミナー(博士後期課程)
医療統計学	I001000		J001000
医療疫学	I002000	L002000	J002000
薬剤疫学	I003000	L003000	J003000
ゲノム情報疫学	I004000		J004000
医療経済学	I005000	L005000	J005000
医療倫理学	I006000	L006000	J006000
健康情報学	I007000	L007000	J007000
医学コミュニケーション学	I016000		J016000
環境衛生学	I009000		J009000
健康増進・行動学	I010000	L010000	J010000
予防医療学	I011000	L011000	J011000
社会疫学	I020000		J016000
健康政策・国際保健学	I013000		J013000
環境生態学	I014000		J014000
人間生態学	I015000		J015000
知的財産経営学	M018000		
遺伝医療学(遺伝カウンセラー)	N901000		
臨床統計家育成コース(臨床統計学)	I019000		

(別表 2) 社会健康医学・臨床疫学研究(演習・実習)科目コード

科目名	科目コード
社会健康医学・臨床疫学研究(演習)	P033000
社会健康医学・臨床疫学研究(実習)	P034000

(別表 3) 案

令和 5 年度開講科目		令和 4 年度以前開講科目
科目コード	科目名(新)	科目名(旧)
H166000	医療制度・政策・経済	医療制度・政策 世界における医療制度・政策 行動経済学と健康医療介護
H167000	QOL・PRO 評価法	なし
H168000	遺伝サービス情報学	なし
H169000	公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション	なし
H170000	健康危機管理	なし
M028000	創薬医学特論	なし

◇専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて

<特別コース>

I. 臨床研究者養成（MCR）コース

(<http://www.mcrkyoto-u.jp/>)

(1) 学習達成目標

- ① 臨床研究を支える種々の基本理論、知識、実践技術に習熟すること。
- ② 自分の臨床上の疑問に基づいた臨床研究を計画し、研究プロトコルの作成、研究の実施・マネジメント、得られたデータの基本的な解析処理、結果の解釈、論文にまとめる、などの一連の作業を独力でできる。
- ③ 自分の臨床研究の計画・実施・解析・解釈の過程で生じる疑問について、適切な時期に、適切な専門家に、適切な相談・照会ができる。

(2) 本コースのカリキュラムの特徴

① 集中的な授業・実習

本コースでは、臨床研究の基本（理論、知識、方法、実践）を1年間で体系的に学習できるよう全体のカリキュラムが構成されている。加えて、本コース推奨科目以外にも社会健康医学系専攻が提供する殆ど全ての科目を履修することができる。なお、学生が入学前に取得した科目があり、既修得単位として認められれば履修が免除される。

② 個別指導（メンタリング）の重視

本コースの学生には、入学時に1～2名の個別指導担当教員（メンター）を決定し、この担当教員が責任を持って担当学生の研究プロトコルの作成やデータの解析の指導、および実際の研究計画実施上の指導を行なう。研究の種類にもよるが、必要に応じて2名が指導教員となることもある。この個別指導は、本コース在学期間のみでなく、双方の合意のもとに、修了後も、研究実施、結果解析、論文作成まで継続的に行うことを念頭につくられている。指導教員の決定にあたっては、学生本人と本コース教員の間で協議を行ない決定する。

③ 修了時の課題研究発表と試問

本コース修了時に、全ての学生は、自分の臨床上の疑問に基づく臨床研究を完成させ（研究プロトコルも認める）、発表会で試問を受け、合格する必要がある。

なお専門職大学院のため、修士論文などは課さない。

(3) 修了要件

科目	単位数
MPH コア 5 領域（コア領域 1－5 のすべての領域を含む 7 単位以上*） および MCR 必修科目	14
選択科目	12
課題研究	4
計	30

*詳細は、「MCR コース授業科目一覧表」を参照。

平成 28 年度以降入学者は、上記を適用する。

照会先：臨床情報疫学分野および各担当分野

令和5年度 社会健康医学系専攻 臨床研究者養成 (MCR) コース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
MCR 必修	K026000	★ 臨床研究計画法Ⅰ	○		川上教授	1	MCR 限定
	K027000	★ 臨床研究計画法Ⅱ		○	川上教授	1	MCR 限定
	K028000	★ 臨床研究計画法演習Ⅰ	○		山本教授	1	MCR 限定
	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	【コア領域2】
	H118000	疫学Ⅰ (疫学入門)	○		中山教授	1	【コア領域1】
	H119000	疫学Ⅱ (研究デザイン)	○前†		山本教授	1	【コア領域1】
	K030000	★ 医療技術の経済評価	○前†		今中教授	1	MCR 限定
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1	
	H112000	臨床試験	○		田中司朗特定教授	2	
	-	コア領域3の科目を最低1単位*				1	【コア領域3】
	-	コア領域4の科目を最低1単位**				1	【コア領域4】
	-	コア領域5の科目を最低1単位***				1	【コア領域5】
	L002000	課題研究：MCR (医療疫学)		通年	指導教員	4	指導教員が開講する課題研究を履修
	L003000	課題研究：MCR (薬剤疫学)					
L005000	課題研究：MCR (医療経済学)						
L006000	課題研究：MCR (医療倫理学)						
L007000	課題研究：MCR (健康情報学)						
L011000	課題研究：MCR (健康増進・行動学)						
L010000	課題研究：MCR (予防医療学)						
MCR 推奨 選択	K036000	★ 系統的レビュー	夏季集中		古川教授	1	MCR 限定選択
	K033000	★ データ解析法特論	○後半		山本教授	1	MCR 限定選択
	K020000	★ EBM・診療ガイドライン特論		○	中山教授	1	MCR 限定選択
	K029000	★ 臨床研究計画法演習Ⅱ		○	山本教授	1	MCR 限定選択
	K025000	★ 臨床研究データ管理学		○前†	田中(佐)特定教授	1	MCR 限定選択 CB 限定必修
	K034000	★ 臨床研究特論		○	石見教授	2	MCR 限定選択
	K035000	★ 社会疫学研究法	○後半		近藤教授	1	MCR 限定選択
	H129000	医療の質評価	○後半		今中教授	1	
	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2	
	H076000	基礎医療倫理学	○前†		中島准教授	1	【コア領域5】
	H075000	行動科学	○前†		田近准教授	1	【コア領域5】
	H021000	交絡調整の方法		○	大森特定教授	2	
	H022000	解析計画実習		○	大森特定教授	2	
	H130000	健康情報学Ⅰ		○	中山教授	2	
	H109000	医薬政策・行政		○前†	川上教授	1	【コア領域4】
	H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1	
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2	
	H146000	メタアナリシス	集中		田中司朗特定教授	1	CB・MCR 限定選択
	H167000	QOL・PRO 評価法		○*	山本教授	1	

★ MCR 限定科目は、MCR 専科生および受講生のみ受講可能である。聴講は不可。

*コア領域3の科目とは、感染症疫学および産業・環境衛生学 (西浦教授) であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

**コア領域4の科目とは、社会健康医学と健康政策 (健康政策の運営委員会)、医薬政策・行政 (川上教授)、保健・医療の経済評価、医療制度・政策・経済 (今中教授) であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

***コア領域5の科目とは、行動科学 (古川教授)、基礎医療倫理学 (中島准教授)、医学コミュニケーション基礎 (岩隈准教授)、社会疫学 (近藤教授) であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

† 開講日注意

※上記以外のシラバスに掲載されている MPH 科目 (他のコース等の限定科目を除く) を選択科目として履修することができる (開講日時が同一の科目を同時に履修登録することは不可)。

II. 遺伝カウンセラーコース

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/class-06.html>)

(1) 遺伝カウンセラーコースの概要

ゲノム・遺伝情報を利用した医療、遺伝薬理学情報に基づいたテーラーメイド医療に対応できる高度な専門的知識と技術ならびにコミュニケーション能力をもち、患者・家族の立場を理解して新医療とのインターフェースとなりうる人材を総合的に養成する。

(2) 遺伝カウンセラーコースの特徴

- ① 充実したスタッフ：この分野でトップレベルの多数の指導者が社会健康医学系専攻の教員とともに充実した専門教育を行う。
- ② 社会健康医学の幅広い素養：社会健康医学コア科目を履修する。修了時には、社会健康医学修士(専門職)(Master of Public Health; MPH)の学位が授けられる。
- ③ 充実した実習：現場での実習に特に重点を置いており、京都大学医学部附属病院遺伝子診療部などでの充実した実習が可能である。
- ④ 資格認定試験受験資格：遺伝カウンセラーコース：コース終了後、「認定遺伝カウンセラー」資格認定試験受験資格が得られる。

(3) 修了要件

科目	「医療系」 出身者*	「医療系」 以外出身者
MPH コア 5 領域 (コア領域 1 - 5 のすべての領域を含むこと)	7	7
医学基礎 I ^(注1) 、医学基礎 II、臨床医学概論	—	6
遺伝カウンセラーコース必修	2 9	2 7
課題研究	4	4
合計	4 0	4 4

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部の出身者

上記以外でかつ生物系等学部、医療系短期大学及び医療系専門学校出身者であっても医療系の国家資格を取得できるコースの出身者が「医療系」出身者として認定を希望する場合は、一括認定の対象とする。

「上記の一括認定されなかった者」で、「医療系」出身者としての認定を求める際は、入学時に申請が必要である。

平成 28 年度以降入学者は、上記を適用する。

(注 1) 医学基礎 I として、「医療系以外出身者」は「医学基礎 I (「基礎人類遺伝学」) を履修すること。なお、「医療系出身者」は「基礎人類遺伝学」を履修すること (令和 4 年度以降入学者)。

(参考) 課題研究：

初年度の学習や実習経験に基づいて専門領域の発展にふさわしいテーマを見出し、テーマごとにもっとも適切な教員の指導のもと、遺伝医療および遺伝カウンセリングの臨床現場の質の向上に資するとともに、クライアントの QOL の改善につながるような研究を行い、とりまとめを行う。

照会先：遺伝医療学分野

令和5年度 社会健康医学系専攻 遺伝カウンセラーコース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域 1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山教授	1	必修
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○前半		山本教授	1	必修
コア領域 2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修
コア領域 3	H070000	感染症疫学	○後半		西浦教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○		西浦教授	1	選択必修
コア領域 4	H166000	医療制度・政策・経済	○		今中教授	2	選択必修
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	選択必修
	H109000	医薬政策・行政		○前半	川上教授	1	選択必修
コア領域 5	H075000	行動科学	○前半		田近准教授	1	推奨
	H076000	基礎医療倫理学	○前半		中島准教授	1	GC 必修
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○前半		岩隈准教授	1	推奨
MPH 必修	H164000	医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）	○		和田特定教授	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	尾野准教授・加藤准教授・塩見助教・山地助教・河田講師	2	
	H008000	臨床医学概論		○	奥野講師・錦織助教・岩崎講師・星野特定講師・千葉非常勤講師	2	
	N901000	課題研究（遺伝カウンセラー）	2年次		所属分野の指導教員	4	
GC 必修	H040000	基礎人類遺伝学	1年次		和田特定教授	2	
	N015000	遺伝医療と倫理・社会	1年次		和田特定教授	2	
	N021000	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	1年次		中島准教授	3	
	N022000	基礎人類遺伝学演習		1年次	和田特定教授・吉田特定助教	1	GC 限定
	N006000	臨床遺伝学演習（ロールプレイ演習）		1年次	和田特定教授・鳥嶋特定助教	1	GC 限定
	N018000	医療倫理学各論		1年次	中島准教授	2	
	N017000	遺伝医学特論（集中講義）	2年次		中島准教授	2	
	N020000	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論	1年次		和田特定教授	3	GC 限定
	N007000	遺伝カウンセリング演習 1	1年次（隔週）		川崎特定講師	2	合同カンファレンス
	N008000	遺伝カウンセリング演習 2	2年次（隔週）		川崎特定講師	2	合同カンファレンス
	N009000	遺伝カウンセリング実習 1	1年次		中島准教授	2	GC 限定
	N010000	遺伝カウンセリング実習 2	2年次		中島准教授	4	GC 限定
	M022000	ゲノム科学と医療		1年次	松田教授	2	
	H168000	遺伝サービス情報学	○後半		川崎特定講師	1	GC 限定
GC 推奨 選択	H157000	社会疫学	○		近藤教授	2	
	H156000	質的研究入門	集中		中山教授・河野特定助教	1	
	S004000	統計遺伝学Ⅰ	集中			2	参考科目、2023年度は開講せず
	S005000	統計遺伝学Ⅱ		集中		2	参考科目、2023年度は開講せず
	H093000	文献検索法	○前半		高橋准教授	1	
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1	

※ GC = 遺伝カウンセラーコース

† 開講日注意

医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）と基礎人類遺伝学の両方を履修することはできない。

Ⅲ. 臨床統計家育成 (CB) コース

(<http://www.cbc.med.kyoto-u.ac.jp/>)

(1) 学習達成目標

- ① 臨床研究の科学的な質を保つために必要な統計学基礎および臨床統計学を修めること。特に「臨床試験のための統計的原則 (ICH E9 ガイドライン)」について十分に理解すること。
- ② 病院での臨床研究に関する実地研修を通じて、統計解析、データマネジメント等の実務を経験し、臨床統計家に求められる技術に習熟すること。
- ③ 臨床研究の倫理的な質を保つために必要な知識・態度を身に着けること。特に日本計量生物学会作成の「統計家の行動基準」について十分に理解すること。

(2) 本コースのカリキュラムの特徴

本コースは、臨床統計家の人材供給を求める日本の臨床研究現場からの強いニーズにより設置された2年制の専門職学位課程である。コース修了後は、臨床統計家育成コースを修了したことを証明する修了証とともに社会健康医学修士(専門職)が授与される。本コースでは、臨床統計家に必要な知識、技術、態度を2年間で体系的に学習できるよう、臨床統計関連科目だけではなく、医学、疫学、研究倫理などから全体のカリキュラムが構成されている。これに加えて、臨床試験を実施している京都大学医学部附属病院・国立循環器病研究センターと連携し、on the job training による臨床研究に関する実地研修を提供する(1年次・2年次の夏季集中で行う臨床研究実地研修Ⅰ・Ⅱ)。この実務経験を通じて、計画立案、データマネジメント、解析等、臨床統計学の実践的な技術を学ぶことができる。また、本コース推奨科目以外にも社会健康医学系専攻が提供する多くの科目を履修することができる。

(3) 修了要件

科目	「医療系」 出身者*	「医療系」 以外出身者
MPH コア 5 領域 (コア領域 1-5 のすべての領域を含むこと)	10	10
医学基礎Ⅰ ^(注1) 、医学基礎Ⅱ、臨床医学概論	—	6
臨床統計家育成コース必修	19	19
課題研究	4	4
合計	33	39

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部の出身者

上記以外でかつ生物系等学部、医療系短期大学及び医療系専門学校の出身者であっても医療系の国家資格を取得できるコースの出身者が「医療系」出身者として認定を希望する場合は、一括認定の対象とする。

「上記の一括認定されなかった者」で、「医療系」出身者としての認定を求める際は、入学時に申請が必要である。

(注1) 令和4年度以降は「医学基礎Ⅰ」として、「医学基礎Ⅰ(生理学Ⅰ)」「医学基礎Ⅰ(神経生理学)」「医学基礎Ⅰ(解剖学)」あるいは「医学基礎Ⅰ(基礎人類遺伝学)」のいずれか履修すること。

照会先：医療統計学分野および臨床統計学分野

令和5年度 社会健康医学系専攻 臨床統計家育成コース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山教授	1	必修
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○前半		山本教授	1	必修
コア領域2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修
コア領域3	H070000	感染症疫学	○後半		西浦教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○前半		西浦教授	1	選択必修
コア領域4	H166000	医療制度・政策・経済	○		今中教授	2	選択必修
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	選択必修
	H109000	医薬政策・行政		○前半	川上教授	1	推奨
	H126000	保健・医療の経済評価	○前半		今中教授	1	推奨
コア領域5	H075000	行動科学	○前半		田近准教授	1	選択必修
	H076000	基礎医療倫理学	○前半		中島准教授	1	選択必修
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○前半		岩隈准教授	1	選択必修
	H157000	社会疫学	○		近藤教授	2	選択必修
MPH 必修	H154000	医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）	○前半		西浦教授	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。ただし、医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）・医学基礎Ⅰ（神経生理学）・医学基礎Ⅰ（解剖学）・医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）についてはいずれか1つを選択必修。
	H163000	医学基礎Ⅰ（神経生理学）		○前半	西浦教授	2	
	H153000	医学基礎Ⅰ（解剖学）	○前半		西浦教授	2	
	H164000	医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）	○		和田特定教授	2	
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	尾野准教授・加藤准教授・塩見助教・山地助教・河田講師	2	
	H008000	臨床医学概論		○	奥野講師・錦織助教・岩崎講師・星野特定講師・千葉非常勤講師	2	
	I019000	課題研究（臨床統計家育成コース）	2年次		各指導教員	4	
CB 必修	H136000	統計的推測の基礎	○		大森特定教授	2	
	H134000	統計家の行動基準	○↑		佐藤教授	1	
	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2	
	H112000	臨床試験	○		田中司朗特定教授	2	
	H137000	生存時間解析		集中	大森特定教授	1	夏季集中講義
	H138000	統計モデルとその応用		集中	大森特定教授	1	夏季集中講義
	H021000	交絡調整の方法		○	大森特定教授	2	
	H022000	解析計画実習		○	大森特定教授	2	
	H135000	臨床試験の統計的方法		○	田中司朗特定教授	1	
	K025000	臨床研究データ管理学		○	田中（佐）特定教授	1	MCR 限定選択・CB 限定必修
	H140000	臨床研究実地研修Ⅰ	通年・集中		田中司朗特定教授	2	CB 限定必修（病院での実習）
H147000	臨床研究実地研修Ⅱ	通年・集中		田中司朗特定教授	2	CB 限定必修（病院での実習）	
CB 推奨 選択	H139000	臨床統計家の実務スキル	○		大森特定教授	1	
	H084000	観察研究の統計的方法	○↑		佐藤教授	2	
	H093000	文献検索法	○前半		高橋准教授	1	
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1	
	H144000	統計的推測の基礎・演習	○		大森特定教授	1	CB 限定選択
	H145000	多重性の考え方	○前半		大森特定教授	1	

H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1	
H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2	
M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2	
H130000	健康情報学Ⅰ		○	中山教授	2	
H151000	健康情報学Ⅱ		○	高橋准教授	2	
H146000	メタアナリシス	集中		田中司朗特定教授	1	CB・MCR 限定選択

※ CB = 臨床統計家育成コース

† 開講日注意

<特別プログラム>

I. 知的財産経営学プログラム

(1) 知的財産経営学プログラムの概要

大学の研究成果をもとに新規産業を興し経営するには、これまでの日本の企業風土で蓄積された企業文化、経営のノウハウとは異なるものが要求される。その一つが技術経営であり、特に知的財産を最大限に活用する知的財産戦略を担うディレクター（知的財産ディレクター）の仕事である。ここで期待される人材は、複数の異なるベクトルを持つ必要がある。

- ① 自然科学の分野において、医学研究科で先端医学領域の研究を実施している教員や産業界における探索・開発研究の経験が豊富な教員による講義により、トップレベルの科学的な知識とその活用に応じた社会的受容性の知識を習得してもらう。
- ② 人文・社会健康医学系専攻科学の分野において、知的財産権やその他ビジネスに関する基礎は、各専門分野により選ばれた教員の講義から知識を学ぶと共に、実業界でのキャリアを持つ講師（ベンチャーキャピタル分野）から、企業会計や知的財産の市場評価・流通の実務的なスキルと知識を学ぶ。
- ③ 上記により習得した知識をベースとして、実務経験を通じた知識の深化と、即戦力としての実務能力の養成を行う。具体的には、京都大学医学領域拠点業務との連携やエクスターンシップの実施も含めて、テーマ毎に適切な指導教員のもとで研究者とも連携し、研究成果の権利化と活用の実務を手伝う。実施項目としては、発明の抽出、周辺特許調査、明細書作成、ビジネスプラン作成、契約実務作業等を経験する。これらにより発明の開示から知的財産としての活用までの全体の流れを把握し、出願妥当性の判断に至る経緯の考察や産業界との連携における問題点と解決法に関する考察などのプレゼンテーションまで実際に経験させる。

これらにより専門職大学院として問題解決能力、実践・実務能力を身に付け、生命科学分野における知的財産経営、技術経営に関する高度な専門性を有する人材養成のための教育研究を行う。

(2) 修了要件

本プログラムの修了要件は、2年以上在学し、下記の30単位を修得し、本プログラムが定めるカリキュラムを修了することである。

【2022年度以前入学者】

	「医学部医学科」出身者	「医学部医学科」以外出身者
MPH コア5領域(コア領域1-5のすべての領域を含む)	7	7
知的財産領域必修	1 2	1 2
課題研究(知的財産経営学)	4	4
医学領域選択必修	3	3
選択	4	4
計	30	30

【2023年度以降入学者】

	「医療系」出身者	「医療系」以外出身者
MPH コア5領域(コア領域1-5のすべての領域を含む)	7	7
MPH 必須	—	6
知的財産領域必修	8	8
課題研究(知的財産経営学)	4	4
選択	1 1	5
計	30	30

照会先：知的財産経営学分野

令和5年度 社会健康医学系専攻 知的財産経営学プログラム 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山教授	1	必修
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○前年		山本教授	1	必修
コア領域2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修
コア領域3	H070000	感染症疫学	○後半		西浦教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○前年		西浦教授	1	
コア領域4	H166000	医療制度・政策・経済	○		今中教授	2	選択必修
	H126000	保健・医療の経済評価	○前年		今中教授	1	
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	
	H109000	医薬政策・行政		○前年	川上教授	1	
コア領域5	H075000	行動科学	○前年		田近准教授	1	選択必修
	H076000	基礎医療倫理学	○前年		中島准教授	1	
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○前年		岩隈准教授	1	
	H157000	社会疫学	○		近藤教授	2	
MPH 必修	H154000	医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）	○前年		西浦教授	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。ただし、医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）・医学基礎Ⅰ（神経生理学）・医学基礎Ⅰ（解剖学）・医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）についてはいずれか1つを選択必修。
	H163000	医学基礎Ⅰ（神経生理学）		○前半	西浦教授	2	
	H153000	医学基礎Ⅰ（解剖学）	○前年		西浦教授	2	
	H164000	医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）	○		和田特定教授	2	
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	尾野准教授・加藤講師・塩見助教・渡部病室特定助教・河田講師	2	
	H008000	臨床医学概論		○	奥野講師・錦織助教・岩崎講師・星野特定講師・千葉非常勤講師	2	
	M018000	課題研究（知的財産経営学）	2年次		各指導教員	4	
知的財産領域必修	M001000	アントレプレナーシップ	○		寺西非常勤講師	2	一部科目で集中講義や不規則開講の形式をとるものもあり。各シラバスなどを確認すること。
	M026000	メディカル分野技術経営学概論	○		山本非常勤講師	2	
	M024000	特許法特論・演習(前期)	○		高山非常勤講師・東田非常勤講師	2	
	M004000	契約実務演習		○	鈴木特定准教授	2	
選択	M017000	知的財産経営学基礎	○		早乙女特定教授	2	
	M021000	アントレプレナーシップ特論	集中		早乙女特定教授	2	夏期集中講義
	M025000	特許法特論・演習(後期)		○	田中順也非常勤講師	2	
	M007000	知的財産法演習		○	當麻非常勤講師	2	
	M028000	創薬医学特論		○	早乙女特定教授	1	
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田（文）教授	2	
	H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1	
	M009000	薬理学 ^(医)	(春学期)		林教授	2	
	M027000	生化学 ^(医)	(春学期)		竹内教授	2	

注1：^(医)は医学部医学科の科目

注2：選択科目にはこの他にも、経済学研究科、法学研究科の関連科目を個別に単位認定する可能性があるため、指導教員に確認すること。

*開講日注意

(別表)

2023年度科目		2022年度科目	
区分	科目名	区分	科目名
選択	特許法特論・演習(後期)	知的財産領域必修	特許法特論・演習(後期)
選択	知的財産法演習	知的財産領域必修	知的財産法演習

選択	医薬品の開発と評価	医学領域選択必修	医薬品の開発と評価
選択	薬理学 ^(医)	医学領域選択必修	薬理学 ^(医)
選択	生化学 ^(医)	医学領域選択必修	生化学 ^(医)
選択	創薬医学特論		
		医学領域選択必修	病理学総論 ^(医)
		医学領域選択必修	生理学 ^(医)
		医学領域選択必修	発生学 ^(医)
		医学領域選択必修	遺伝医学特論（集中講義）

II. 医療経営ヤングリーダー・プログラム

(1) 医療経営ヤングリーダー・プログラムの概要

医療経営ヤングリーダー・プログラムは、高度専門職である医療経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムであり、財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、新たな教材や教育方法の創造にも参加し、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて演習、調査、ケーススタディ等を行う。

当プログラムは、面接、審査の上、経営の素養と意欲のある人材、各年若干名を対象に開講する。ケーススタディに加えて、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、支援活動などを進め、情報収集、分析、妥当な計画立案、説得力ある討議、環境適応、変革・創造、行動の力を高めるべく訓練を行う。これらを通じて現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担いうる人材の養成をめざす。

(2) 医療経営ヤングリーダー・プログラムの修了要件

- ① 社会健康医学系専攻専門職学位課程の修了のための要件を満たすこと
- ② 下記を全て履修すること

区分	科目コード	科目名	単位	時期
コア領域4	H166000	医療制度・政策・経済	2	前期
コア領域4	H126000	保健・医療の経済評価	1	前期前半
MPH 選択	H129000	医療の質評価	1	前期後半
限定	H082000	医療経営特別カリキュラムⅠ	2	前期
限定	H083000	医療経営特別カリキュラムⅡ	2	後期
限定	H053000	医療経営ケーススタディ	2	通年
MPH 必修	I005000	課題研究（医療経済学分野）	4	—

※前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

- 社会健康医学系専攻の多くの科目の選択を自ら設計して積極的に履修することを強く推奨する。
- さらに、経営管理大学院、公共政策大学院、または経済学研究科の科目を履修することを強く推奨する。
- また、当該分野でのセミナーに積極的に参加することが求められる。

- ③ 課題研究で医療経営に関わる課題に取り組むこと

照会先：医療経済学分野

コースツリーの見方： 図の下部からコア基礎→中級→応用と積み上げてゆき、最終的に「課題研究」を達成する

全体DP:「社会における人間の健康や疾病に関わる問題を探知・評価・分析・解決する知識、技術、態度を有する高い素養を身につける」

<p>専門職学位課程 DP:</p> <ol style="list-style-type: none"> 社会健康医学に関わる実務・政策・調査・教育において、専門的かつ指導的役割を果たすことができる 人々の健康に関わる経済・環境・行動・社会的要因について知識を深め、新しい知識と技術を生み出すことができる 生み出した新しい知識と技術を健康・医療に関わる現実社会の実践・方策と政策に還元できる 社会健康医学に関わる各専門の知識と技術をもって、個人・組織・地域・国・世界レベルで貢献できる 	<p>GCコース DP:</p> <p>先端医療に対応できる高度な専門的知識とコミュニケーション能力を持ち、患者・家族の立場を理解して遺伝医療におけるインターフェースとなる能力を身につける</p>	<p>CBコース DP:</p> <p>臨床研究の科学的な質を臨床研究に必要な統計学基礎・臨床統計学の知識・実践・実務能力、及び、高度な質を保つために必要な知識・態度を身につける</p>	<p>知財プログラム DP:</p> <p>生命科学分野における知的財産権、技術経営に関する問題解決能力、実践・実務能力、及び、高度な専門性を身につける</p>
--	---	--	---

専門職学位課程全学生必修

<p>疫学</p> <p>フィールドワーク 臨床試験(MCR・CB) 質的研究・演習 QOL・PRO評価法 質的研究入門 知財特許研究の進め方 人間生態学</p>	<p>医療統計</p> <p>観察研究の統計的方法 解法計画実習 交絡調整の方法 医療統計学実習 統計遺伝学 I・II</p>	<p>環境・感染症</p> <p>ベンチトレーニングコース 環境・感染症論 環境曝露・リスク評価 毒性科学 感染症数理モデル入門</p>	<p>政策・マネジメント</p> <p>行政医学・産業医学 医薬品・医療機器の開発計画、事業と審査 ホストコホート社会の健康危機管理 医薬品の開発と評価 医療の評価 地域保健活動論</p>	<p>行動科学・倫理</p> <p>医療倫理学各論(GC) 健康デザイン論 公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション 基礎人類遺伝学演習(GC限定) 臨床遺伝学演習(GC限定) 遺伝的リテラシー演習 1・2 (GC限定) 遺伝的リテラシー実習 1・2 (GC限定) 基礎人類遺伝学 臨床遺伝学・遺伝的リテラシー 遺伝的リテラシー実習 1・2 (GC限定)</p>	<p>GCコース</p> <p>他の科目も履修可能 遺伝医学特論 ゲノム科学と医療 基礎人類遺伝学演習(GC限定) 臨床遺伝学演習(GC限定) 遺伝的リテラシー演習 1・2 (GC限定) 遺伝的リテラシー実習 1・2 (GC限定) 基礎人類遺伝学 臨床遺伝学・遺伝的リテラシー 遺伝的リテラシー実習 1・2 (GC限定)</p>	<p>CBコース</p> <p>他の科目も履修可能 統計モデルとその応用(CB) 生存時間解析(CB) 臨床試験の統計的方法(CB) 臨床研究実地研修 I・II (CB限定) 統計家の行動基準(CB) 統計的推測の基礎(CB) 統計的推測の基礎・演習(CB限定) メタアナリシス(CB) 多重性の考え方(CB) 臨床統計家の実務技能(CB限定)</p>	<p>知財プログラム</p> <p>他の科目も履修可能 知財特許論 創業医学特論 知的財産法演習 特許法特論・演習(前期) (後期) 契約実務演習 知財特許論 知的財産経営学基礎 メディカル分野技術経営概論 生命科学系以外実理学</p>	<p>医療経営</p> <p>マネジメント限定 医療経営特別 知財 I・II 医療経営ケース研究 その他科目 社会健康医学課外実習 (イタラシ)</p>
--	--	---	---	---	---	---	---	---

<p>社会疫学研究法 (MCR限定)</p> <p>疫学研究計画法 I・II / 演習 I・II (MCR限定) 疫学研究特論 I・II (MCR限定)</p>	<p>疫学研究法 (MCR限定)</p> <p>疫学研究計画法 I・II / 演習 I・II (MCR限定) 疫学研究特論 I・II (MCR限定)</p>	<p>疫学研究法 (MCR限定)</p> <p>疫学研究計画法 I・II / 演習 I・II (MCR限定) 疫学研究特論 I・II (MCR限定)</p>	<p>疫学研究法 (MCR限定)</p> <p>疫学研究計画法 I・II / 演習 I・II (MCR限定) 疫学研究特論 I・II (MCR限定)</p>	<p>疫学研究法 (MCR限定)</p> <p>疫学研究計画法 I・II / 演習 I・II (MCR限定) 疫学研究特論 I・II (MCR限定)</p>	<p>疫学研究法 (MCR限定)</p> <p>疫学研究計画法 I・II / 演習 I・II (MCR限定) 疫学研究特論 I・II (MCR限定)</p>	<p>疫学研究法 (MCR限定)</p> <p>疫学研究計画法 I・II / 演習 I・II (MCR限定) 疫学研究特論 I・II (MCR限定)</p>	<p>疫学研究法 (MCR限定)</p> <p>疫学研究計画法 I・II / 演習 I・II (MCR限定) 疫学研究特論 I・II (MCR限定)</p>
---	---	---	---	---	---	---	---

<p>健康情報学 I</p> <p>健康情報学 I 健康情報学 II</p>	<p>健康情報学 II</p> <p>健康情報学 II 健康情報学 III</p>	<p>文獻検索法 (GC)</p> <p>文獻検索法 (GC) 文獻検索法 (GC)</p>	<p>エビデンスユーザー入門</p> <p>エビデンスユーザー入門 エビデンスユーザー入門</p>	<p>グローバルヘルス通論</p> <p>グローバルヘルス通論 グローバルヘルス通論</p>
---	--	---	--	---

<p>コア領域1</p> <p>疫学 I (疫学入門) (コア必修) 疫学 II (研究デザイン) (コア必修)</p>	<p>コア領域2</p> <p>医療統計学 (コア必修)</p>	<p>コア領域3</p> <p>感染症疫学 産業・環境衛生学</p>	<p>コア領域4</p> <p>医療制度・政策・経済 社会健康医学と健康政策 医薬政策・行政 (GC) 保健・医療の経済評価</p>	<p>コア領域5</p> <p>行動科学 基礎医療倫理学 (GC) 医学コミュニケーション基礎 社会疫学</p>
---	---	---	---	---

特別コース・プログラムの点線の枠内の科目で、科目名の後に (● 限定) という指定がない科目は専門職学位課程全学生が対象 (履修可能)。
特別コース・プログラムの点線の枠外の科目で、科目名の後に (MCR) や (GC) 等特別コースを示す括弧がある科目は、当該特別コースの必修科目。
MCR: 臨床研究養成コース
GC: 遺伝的リテラシー
CB: 臨床統計学養成コース
知財: 知的財産経営学プログラム
<凡例>

座学
実習・演習

医学研究科 社会健康医学系専攻 博士後期課程 コースツリー

作成日：2023年2月22日

全体DP:「社会における人間」の健康や疾病に関わる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な学術課題を考究する素養を身に付ける

博士後期課程DP:

1. 社会健康医学に関わる実務・政策・調査・教育において、**高度**に専門的かつ指導的役割を果たすことができる
2. 人々の健康に関わる**経済・環境・行動・社会的要因**について**高度な知識**を深め、新しい知識と技術を生み出すことができる
3. 生み出した新しい知識と技術を健康・医療に関わる**現実社会の高度な実践方策と高度な政策**に還元できる
4. 社会健康医学に関わる各専門の**高度な知識と技術**をもって、個人、組織・地域・国・世界レベルで貢献できる

【3年次】博士論文

博士課程セミナー

社会健康医学・臨床疫学研究（演習・実習）

各自の到達目標に合わせ本専攻専門職学位課程の各科目を履修することができる

以下の各科目について、本専攻専門職学位課程からの進学者は履修する必要はない

社会健康医学におけるコア5領域の科目群

コア(選択)必修	疫学	医療統計	環境・感染症	政策・マネジメント	行動科学・倫理	医学基礎領域 (医療系学部等 以外出身者)
コア領域1 疫学Ⅰ(疫学入門) (コア必修) 疫学Ⅱ(研究デザイン) (コア必修)	コア領域2 医療統計学 (コア必修)	コア領域3 感染症疫学 産業・環境衛生学	コア領域4 医療制度・政策・経済 社会健康医学と健康政策 医薬政策・行政(GC) 保健・医療の経済評価	コア領域5 行動科学 基礎医療倫理学 医学コミュニケーション基礎 社会疫学	左記のコア5領域について、コア必修およびコア3～5の各領域から1単位以上合計7単位を修得することを修了の要件とする。	医学基礎領域 (医療系学部等 以外出身者) 医学基礎Ⅰ 医学基礎Ⅱ 臨床医学概論

博士後期課程1～3年次

